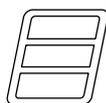


# かねざわ

第60号

平成29(2017)年2月

- ・分科会代表との連絡会 報告 (P-2)
- ・「金沢藩(六浦藩)米倉家について」(P-36)



## 次

### 運営委員会からのお知らせ

2 分科会代表との連絡会 報告

5 学習会日程変更のお知らせ

### 学習会

6 第7回学習会  
「武蔵七党の系譜」

### 分科会からの便り

11 「寺社を巡る会」

19 「懐かしの映画を観る会」  
鑑賞録 No21

### 分科会からの便り

26 「ふれあいの道歩こう会」実施概要 No16  
小俣 悦男

29 「浮雲俳句会」 妙録 No36  
代表 北野 清市

34 「パソコンなんでも相談室」 【10】  
代表 林 洋

36 「古文書を読む会」 代表 真田 雅行  
「金沢藩(六浦藩)米倉家について」

### 行事予定

42 3月~5月



## 金沢区生涯学習“わ”の会

ホームページ:<http://kanazawa-wanokai.in.cocan.jp/>

メー ル:yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com

## 第 12 回分科会代表との連絡会 報告

分科会代表と運営委員との平成 28 年度連絡会が開催されました その内容を報告します

日 時 平成 29 年 1 月 7 日(土) 10:30~12:30

場 所 金沢区民活動センター 会議室 AB

出席者 「寺社を巡る会」：吉田(寿) 代表 「古文書を読む会」：真田 代表  
「ふれあいの道歩こう会」：江口 代表 「懐かしの映画を観る会」：佐藤 代表  
「浮雲俳句会」：北野 代表 「パソコンを使いこなす会」：林 代表  
運営委員：内田 江口 鈴木 山腰 柴土 瀬川 鈴木 深澤 金間 杉山  
運営委員候補：鶴岡重典氏

### 1. 内田代表挨拶

“わ”の会は学習会と分科会は車の両輪です。来年は“わ”の会 20 周年になります、かなざわの歴史事典の編纂も最終段階となりました、分科会と力を合わせ課題に取り組んでいきたい

### 2. 議 事

#### 2-1 各分科会の活動に関する事項

##### 1)今年度活動状況と来年度の活動予定

###### 「寺社を巡る会」 (吉田寿紀 代表)

- ・会員数 45 名 (男 37、女 8) 前年より 4 名増加・平均年齢 77 歳
- ・年度を 5 月~翌 4 月 (旧 6 月~翌 5 月) に変更した 今年度は 11 ヶ月
- ・今年度から鎌倉ガイド協会にガイドを依頼して、3 年計画で鎌倉巡りを開始、予定通り進行中
- ・29 年度計画は、鎌倉ガイド協会と協議中、1 月中に纏める予定

###### 「古文書を読む会」 (真田 代表)

- ・会員数 16 名、過去最大数は 18 名であるが、入退会はあるが 16 名前後で推移している
- ・今年度計画は予定どおり終了した
- ・来年度予定：第一学習 (赤井村石井家文書・富岡村大胡家文書) 第二学習 (和宮様御下向) 予定し、基礎講座は会員の習熟度が向上したので休講する
- ・金沢区内の古文書資料は限界に近く、その後近隣地区の資料について検討している
- ・代表、講師役ともにこの 2、3 年を目処に検討して行きたい

###### 「ふれあいの道歩こう会」 (江口 代表)

- ・今年度計画は台風・長雨など一部例会が延期されたが当初の予定どおり開催できた
- ・横浜やまゆり会と合同で「山の安全登山講演会」を開催した 参加者 34 名(ふれあい 19 名)

- ・29年度役員交代があり代表（江口）以下新役員となった 会員数 19名（男 13・女 6）  
ビジター5名（男 2・女 3）
- ・コースには難易度を付けている（1～3）・出発時間の遅いコースもありビジターが参加しやすくなっている
- ・平成 29・30 年度の独自コースを選定した

#### 「懐かしの映画を観る会」（佐藤 代表）

- ・会員数 80 名 出席数は 40～60%/回である
- ・今年度は台風のため予定期日を一度変更したが予定通り進行中
- ・来年度の予定は会員から上映希望作品のアンケートを取り 2 月末にスケジュールを決定する
- ・2 本立の例会を 4 回開催していたが、来年度から止める、全て 1 本立。

#### 「浮雲俳句会」（北野 代表）

- ・今年度分予定どおり進行中
- ・来年度の俳句テーマは船
- ・（質問）テーマの中に空母・イージス艦がありますが俳句のテーマとしてしっくり来ない様な気がしますどうなんでしょうか？⇒俳句を作るうえで世界を広く見る必要があります俳句の内容も広く大きくなる

#### 「パソコンを使いこなす会」（林 代表）

- ・会員数 27 名 講座毎の平均出席数 18.2 名
- ・Windows 実用講座：14 回 Office 実用講座：4 回 WORD 復習講座：5 回 画像処理講座：1 回 計 24 講座予定通り進行中
- ・「パソコンで年賀状作成！」講座に講師・サポーター4 名で参加し貴重な経験をした
- ・平成 29 年度活動予定は検討中、2 月確定予定
- ・“わ” の会会員から Windows10 を使う上での困りごとの相談があった、今後も、個別の相談に応じたい

## 2) 記念事業の状況紹介

### 寺社を巡る会（吉田 代表）

- ・15 周年を迎え 2 月 10 日の例会日に講演会を開催する、講師：鎌倉ガイド協会 千葉氏
- ・内輪の行事としたいので参加者は会員のみとする(運営委員の参加は可能)
- 他の分科会は予定なし

## 2-2 “わ” の会の運営に関する事項

### 1) 新入会員懇談会について(2 回目)

- ・2016 年 7 月 30 日区民活動センター会議室で開催、新入会員 7 名中 3 名（北村・小林・能勢各氏）出席
- ・目的 「疎外感」「孤立感」を感じさせないためと「分科会」への勧誘・運営委員候補の人選
- ・目的は達しされたと感じている、ただし新入会員、分科会代表、運営委員との人数バランスが

悪く、運営委員の出席を制限する必要がある

- ・来年度も開催を予定(平成 29 年 7 月 29 日)している

## 2) 学習会について

- ・来年度予定のうち、第 3 回開催日は講師の都合により当初予定から変更されている
- ・テーマについて①室町時代に入る②玉縄北条氏と関連して探訪は小田原城③公開歴史講座は金沢に関連したテーマで調整中

## 3) 来年度体制について

- ・会員数 119 名(当初 122 名であったが死亡 2 名、途中退会 1 名)平均年齢は下がらない
- ・来年度の継続会員申込者数 113 名
- ・新規会員募集チラシを区内 6 か所で配布予定、今年は募集人員を記載しない
- ・運営委員⇒新任候補 鶴岡重典氏 退任 瀬川・柴土氏を予定している
- ・20 周年記念事業として①事典第 3 版編集⇒事典編集委員会にて編集作業中  
②“わ”の会 20 年の歩み ③記念講演 ④祝賀会⇒②、③、④は 20 周年記念実行委員会を開設して検討する  
実行委員会のメンバーとして運営委員+分科会代表、“わ”の会元、前代表の方々を基本に指名させて頂く
- ・“わ”の会 20 年の歩み発行について⇒対外アピール・新入会員用等用途があり、簡素化して発行したい。発行経費の低減策として CD 化を検討してもよいのではないかとの意見有り、説明するには紙がよいとの意見も有り⇒①印刷体:簡素化して発行 ②CD 作成も検討

## 4) 歴史事典について

- ・「第 3 版かねざわの歴史事典」として平成 30 年 5 月の総会で配布予定
- ・版型は B5 ハンディタイプとし、追加項目は付属資料を含めて 87 項目(付属資料含む)

## 5) 会報について

- ・分科会の活動報告が充実した
- ・歴史研究・紀行・会員動静など寄稿記事を載せ定期発行(4 回)した
- ・歴史研究の原稿が少ないので執筆者の発掘が必要である
- ・“わ”の会、投稿規定に沿った、編集を会報 61 号より実施する
- ・投稿の内容・方法について詳しい説明がされた

## 6) ホームページ、“わ”の会通信について

- ・ホームページ開設後、12 年経過した。2016 年度のアクセス数は 483 回/月で若干増加している
- ・“わ”の会通信、今年 3 月で創刊 12 年を迎える。2016 年の発行数 19 号で減少している
- ・ホームページ管理者が金間氏から江口氏に交代する(4 月の予定)
- ・会員の寄稿、レポート、会員の動静ページの活発化に協力願いたい

## 7) フォーラム KANAZAWA について

- ・2017 年 3 月 18 日金沢区役所で開催される
- ・“わ”の会ブースにおいて、学習会・分科会活動の展示を行う

## 2-3 分科会から運営委員会へのご要望、ご意見

- ・特になし



分科会代表との連絡会

## 学習会日程変更の件 お知らせ

1. 第2回学習会      金沢地区センター      6月17日(土)  
13:30~16:00
2. 第3回学習会      能見台地区センター      7月22日(土)  
13:30~16:00

第7回学習会

『武蔵七党の系譜』

開催日：平成28年11月12日(土)

9:30~12:00

会場：能見台地区センター

講師：歴史研究家 盛本 昌広氏



盛本 昌広 氏

1. 概略

平安時代後期から鎌倉時代・室町時代にかけて武蔵国内にいた同族的な武士が結合して出来た比較的規模の小さい七つの集団を武蔵七党と言っている。しかし、文献により必ずしも七つとは限らない。

秩父平氏のような大勢力は時に秩父党と呼ばれることもあるが武蔵七党には入れない。ちなみに秩父平氏には畠山氏・江戸氏・川越氏・小山田氏・榛谷(はんがや)氏・河崎氏などがいて、畠山一族のような呼ばれ方もある。

一方、武蔵七党で良く文献に出てくるのは、横山党・児玉(小玉)党・村山党・猪俣党などがあるが具体的には後述する。

頼朝の書状でも北条時政・佐原義連・和田義盛などは名前を列記しているが、武蔵七党のような小さい武士団は「むさしのとうとうのものとも…」と記している。

各党は基本的には同じ先祖・血縁関係で本拠は特定の地域であったが、姻戚関係とか平安時代後半に開発が盛んになり、武士も開発を進める過程で

各地に進出して散在していった。12世紀初めにはここでいう党的武士団が成立していた。多くは平安後期から鎌倉時代に活動の記録がある。

2. 諸文献による武蔵七党

◎『節用集』(室町時代から出版された日本の用字集・国語辞典の一種)

丹治(たんじ)・私市(きさいち)・児玉・猪俣・吉野・横山・村山……(7党)

◎『武蔵七党系図』(国立公文書館所蔵)

野与・横山・村山・児玉・猪俣・丹(丹治)・西の7党の他、横山・猪俣・児玉・丹・西・私市・綴(都築)の7党(「西」でなく「野与」を入れることあり)

◎『平家物語』

○(覚一本)巻二の三浦攻め「畠山が一族、河越・稲毛・小山田・江戸・葛西、其外七党の兵ども……」又、巻九の逆落しでは「秩父、足利、三浦、鎌倉、党には猪俣・児玉・野井与・横山・にし党・都筑党、私(し)の党の兵ども」……(7党)

○(延慶本)巻二の三浦攻め 河越太郎重頼など秩父平氏の具体名を記すも七党は省略。巻五では「秩父、足利、武田、吉田、三浦、鎌倉、小沢」

横山・児玉・猪俣・野与・山口の党の者ども」 …… (6党)

○(長門本) 卷九「…党どもには金子・むら山・丹党・よこ山・篠党・児玉党・野与・綴喜党等はじめとして…」 …… (8党)

卷十六では「秩父、足利、武田、吉田、三浦、鎌倉その外小沢・横山・児玉・猪俣・野与・山口

の党の者ども」 …… (6党)

◎『源平盛衰記』卷十七三浦攻め  
「党には金子・村山・山口・篠党・児玉・横山・野与党・綴喜等を始めとして二千余騎…」 …… (8党)

文献により6～8党あるが縁起の良い奇数の「七党」としたのではないか。

	児玉	横山	猪俣	野与 野井与	村山	丹治 丹	綴喜 都筑	山口	西	私の 篠	私市	小沢	金子	吉野
節用集	○	○	○		○	○					○			○
党系統図1	○	○	○	○	○	○			○					
党系統図2	○	○	○			○	○		○		○			
党一本	○	○	○	○			○		○	○				
延慶本	○	○	○	○				○				○		
長門本1	○	○		○	○	○	○			○			○	
長門本2	○	○	○	○				○				○		
源平盛衰	○	○		○	○		○	○		○			○	

### 3. 党の主な本拠地と家系・武士団など

(I) 出自など (II) 党内の諸氏と本拠地 (III) 北ノリト

#### ① 猪俣党

(I) 本拠は児玉郡美里村猪俣、武蔵国那珂郡(現・児玉郡)を中心に榛沢・男衾・大里郡に広がる。横山時範が猪俣五郎と称し、祖となった。

(II) 美里村に木部・河匂・甘糟・古郡、寄居町に尾園・藤田・男衾、本庄市に滝瀬、花園村に小前田、深谷市に荏原・人見・横瀬、岡部市に岡部の諸氏がいる。

(III) 猪俣金平六(範綱)や岡部六弥太忠澄は一ノ谷合戦に参加、平薩摩守忠度を討ち取った。「薩摩守」は鉄道料金「キセル」の代名詞になった。

#### ② 児玉党

(I) 七党の中で最大規模。有道氏の流れて武蔵介として下向、児玉郡を開墾して児玉庄とし、子の維行以後土着して児玉氏を称す。本拠は埼玉県北部本庄・児玉・川越で神流川を挟む群馬県鬼石なども含む。

(II) 本庄市に本庄・四方田、児玉町に塩谷・真下、川越市に入西、坂戸市に浅羽、東松山市に小代、越生市に越生、上野国に倉賀野・吉島・大類氏等がいる。

(III) 児玉氏は戦国時代に安芸に移住し毛利氏の家臣となった。日露戦争で満州軍総参謀長として活躍した長州出身の児玉源太郎は子孫である。

#### ③ 野与・村山党

(I) 平忠常の甥・元宗が野与の庄司となり野与氏を称し、第二子・頼任が村山党の祖となる。入間・狭山・瑞穂や多摩郡に根拠を置く。

(II) 野与党は白岡町の鬼窪・白岡、岩槻町の金重・蓑匂・渋江、八潮市の八条、鴻巣市の笠原、嵐山町の大蔵氏など。

村山党は瑞穂・狭山丘陵・所沢地域で所沢市の山口・北野、東村山市の野口・久米川、入間市の官寺、所沢市の山口・久米・荒幡、坂戸市の須黒(勝呂)、川越市の仙波、大井町の大井氏等がいる。入間郡の金子氏は難波田氏の祖となっている。

(III) 金子氏は保元・平治の乱から屋島の戦いまで活躍した記述がある。横浜にも旧家が多くあり、特に篠原町の名主であった金子家は戦国時代から存在する村山党の流れである。

#### ④ 西党(さいとう)

(I) 日奉(ヒマツリ)宗頼が武蔵守となって現日野市に土着し、武蔵国西部(東京都西部)に展開した。日野には居館跡等も残る。

(II) 秋川市の小川・二宮・小宮、日野市に平山、八王子市に長沼・由木・河日・由井、立川市に立川、狛江市に狛江氏等がいる。

(III) 平山武者所季重は保元・平治の乱から平家追討・奥州攻めに参加、居館跡は平山城址公園になっている。高幡不動の再建もしている。

## ⑤ 丹党

(イ) 多治比武信が武蔵に配流され、孫の峯時の時秩父に土着した。多治比は武蔵守となり子孫丹治氏も武蔵守となっている。

(ロ) 秩父市に中村、小鹿野町に小鹿野、東秩父市に大河原、横瀬市に横瀬、両神村に薄(すすき)、上里村に勅使河原、神川村に新里・安保、岡部町に榛沢、飯能市に青木・加治、日高町に高麗、長瀬町に白鳥・岩田・井戸氏等がいる。

(ハ) 安保氏は有力な御家人で安保文書が現存し、横浜市大に所蔵されている。

## ⑥ 私市党(きさいちとう)

(イ) 私市家盛の五代孫・成方が北埼玉郡河原町に移住して河原氏を称した。

(ロ) 久喜市に太田、熊谷市に久下・楊井・市田、青梅市に成木氏がいる。

## ⑦ 横山党

(イ) 七党の中で勢力としては最大の集団となっている。多摩郡・八王子を中心に武蔵各地・相模・上野に広がる。横浜にも根拠を持つ(後述)

敏達天皇の孫・小野妹子から小野篁の系統で、篁から八代後の孝泰が武蔵守として下向、多摩郡横山に土着し、その子義孝が横山大夫を称したのが始め。横山の庄は八王子市一帯で10世紀前半の史料に「小野牧」が出ている。

(ロ) 横山氏(八王子市)、愛甲氏(神奈川県愛甲郡)、海老名氏(神奈川県海老名市)、栗飯原氏・藍原氏(相模原市相原)、平子氏(横浜市中区・磯子・南区)、成田氏(熊谷市成田、戦国時代には忍城を本拠に石田三成の水攻めと戦った)、中条氏(埼玉県中条)、山口氏(多摩郡武蔵村山)、他に小野、和田、荻野、三井、別府、糟谷の各氏の名が挙がっている。

(ハ) \* 横山大夫から五代後の横山時広・時兼父子は頼朝の御家人となり奥州攻めに参加、藤原泰衡の首を獄門に懸けた。時広の曾祖父経兼が前九年の役で安倍貞任の首を懸ける役目の先例による。

\* 横山時兼は和田合戦(建保元年1213年)で和田氏に加担し北条に敗れ、党としての横山氏は滅亡したが子孫は存続している。

\* (平子(たいらこ)氏と横浜)

横山時兼の兄弟・横山広長は平子野内を称した。本牧台地の北側元町・石川町から根岸・磯子、南区の一部を中世では平子(たいらこ)郷と呼んでいた。広長の嫡男・有長(平子野平)は平子郷を、次男の経長は平子郷内の本牧・石川を所領とし、石川二郎と

称した。「本朝世紀」に「武蔵四牧由比・小川・石川・立野御牧御馬四十五匹」とある。石川は横浜と八王子、都築にあり確定できないが何れも横山党の支配地域であり横山氏との密接な繋がりは確かである。立野も横浜にある。

吾妻鑑に「馬允有長」とか「平子左衛門尉」(有長)「平子次郎入道跡」(経長)など何か所にも名が出てきて御家人として活動した様子が分かる。

なお、有長は曾我兄弟の富士の夜討ちで討たれた記録もある。(曾我物語 巻九)

平子氏の子孫は鎌倉幕府で越後地方の地頭職に就いたり、南北朝期には山内上杉家の重臣となっていた。後北条が横浜に侵攻した際に一族は関係のあった越後に去ったとみられる。

現在、山形県の平子市雄氏が所蔵する平子氏文書及び系図は明治になり米沢藩上杉家から返却されたもので、平子氏は越後で上杉家の家臣になっていた事が分かる。なお、後北条氏支配のもとで地名の平子郷の呼称は無くなり、代わりに本目(本牧)郷の名称が出てくる。

## ⑧ 都筑党と都筑氏

(イ) 小野氏系図で横山の姓一覧に「続」があり、「都筑」にあたると思われる。「古今著聞集」には都築経家は平家の郎党として源頼朝に捕らえられたが、馬の扱いに優れていたため御家人に取り立てられたことが記載されている。

(ロ) 都筑は都筑郡を本貫とする御家人。現在の緑区、都筑区、青葉区、港北区の一部、旭区・保土ヶ谷区などの帷子川流域、川崎市麻生区などがその地域である。(現在の横浜は都筑郡、鎌倉郡の一部、久良岐郡、橋樹(たちばな)郡の4郡にまたがる)

(ハ) 経家が馬飼いとして非常に優秀である事、その子・都筑九郎経景は和歌に秀で將軍藤原頼経が開いた歌の会に度々召し出された事などの記録がある。南北朝以後は都筑氏の名が出てこないの、没落したと思われる。

(以上)

七党程度の地方有力者では独自の正確な記録が存在している訳ではない。多種の歴史の記録や物語に断片的に出てくる記述からの考察である。各資料の表現の曖昧さや姻戚関係の複雑さ、筆者の聞き間違いや理解不足と相まって正確さに欠ける点があると思うがご容赦頂きたい。

(相川 勲 記)

## 2016 年度第7回(11 月)学習会アンケート集計

### 1. アンケート集計

出席者		一般会員	委員	計(出席率%)	ビジター	計	アンケート(提出率%)
	男	62	9	71(69.6)	0	71	
	女	9	2	11(64.7)	1	12	
計		71	11	82(68.9)	1	83	43(59.7)

### 2. 講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった
17名	20名	2名	2名

※チェック無し/2名

- ・「武蔵七党」そのものは良くわかったが歴史の中の「武蔵七党」の位置づけと歴史上の活動の意義など聞きたかった
- ・声ははっきり大変聞き良かったです(2)
- ・武蔵七党の名前は聞いておりましたが全体像がわかりました
- ・説明は分かり易いが細部に入りすぎて、時間がかかり過ぎるのが気になる  
地名について現在の地名・場所等をきちんとフォローしているのが親切である
- ・武蔵七党、聞いたことありますが知りませんでした。今回の講演で良くわかりました
- ・日頃あまり出合わない七党のいわれが良くわかった
- ・地域の苗字の関係、通字が興味深かった
- ・歴史が現代とのつながりで語られるところがおもしろい
- ・レジメにそった話で理解しやすいです
- ・地名と名字とが相互に結び付き合っておりあちこちに広がったことが面白かった
- ・これまで知らなかった武蔵七党のことを詳細におはなし頂き有難う御座いました
- ・姓からすると「児玉党」と思われ、先祖のルーツをたどってみようと思います
- ・七党の歴史背景、地名との関連があること、横浜市内の現在地名とのつながりもよく理解できた
- ・身近な地名の由来がわかり、おもしろかった
- ・武蔵七党、なじみがある名前なので新しい知識が得られて良かった
- ・盛本先生の話は毎回おもしろいのですが、今回もおもしろかった
- ・現在残っている地名が武蔵七党の名前から来ていることを改めて確認できた
- ・はきはきして、大変わかりやすかった
- ・七党の系譜が分かった
- ・「七党」比較的身近な話として聴くことが出来た。前列に座っていると盛本氏の声がかんかん響きすぎ
- ・初めてきいたお話で大変興味深かった
- ・非常に興味深い演題でした、調査が詳細で感心した
- ・武蔵七党について良く解った
- ・知識の豊富さに感服
- ・わかり易く説明してくれた
- ・平子氏(石川)の出身を理解した

- 地理的知識が無い為、話の理解が難しかった  
地図をそえていただいたらさらによくわかる
- 興味深いテーマであった(2) (頭の中はゴチャゴチャしていますが)
- 内容がこまかいので話しにくい所だと思います、少しわかりにくかった
- テーマは良かったが話が横とびして関係ない話を聞かされた。講演の筋を整理して話して頂ければよかったテキストの誤字が多い
- 交通事故の話：「新聞記者は現場を見ない」は偏見。全員は見ないかもしれないが、必ず検証している。「バスは道ぎりぎりを通っている」のは事実かもしれないが、代案として小さな車を走らせることもできよう。運送量の問題もあるから現実的でないことは認める。新しく運行を始めた片吹の巡回バスがその例、恐しいのは物事を片側からのみみる(推測する)こと。先生の研究にこんなことがないことを望む

### 3. 盛本講師に講演希望のテーマ

- 地区の事もっと知りたいです
- 金沢区(六浦荘)の所領関係について
- 今回の様な地名の話をまたおねがいします
- 戦国合戦の舞台裏について
- 中世の次、室町・江戸時代の金沢
- 年1回だけでなく、2~3回盛本氏の講演を願う
- 中世の金沢近辺の歴史について
- 時間を取ってもっと詳しく話して貰いたいと思う

### 4. 学習会運営評価

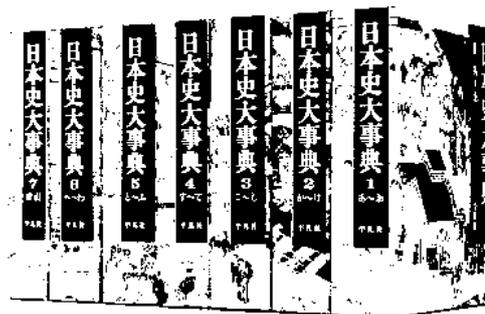
A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. 良くなかった
15名	16名	4名	0名

※チェック無し/8名

- 休憩中の継続手続きに時間がとられた、窓口を増やしてスピードアップすべき(2)
- 各種の会費の徴収に不手際が多い
- 事前の準備ご苦労様です
- 運営がスムーズに進むようになりました

### 5. “わ”の会について

- いつもお世話様でございます、感謝です
- 中世中心の学習会が続いていますがもっと幕末~明治について取上げてほしい
- 金沢の歴史関係の講座



### 『寺社を巡る会』活動記録 平成28年度 第6回～第8回

#### 第6回 光明寺と浄土信仰

開催日 : 平成28年11月3日(木)

参加人数 : 男性30名、女性7名 合計37名

コース : 鎌倉駅～(バス)～光明寺(山門特別拝観)～千手院～蓮乗院～内藤家墓所～  
材木座海岸(昼食)～補陀洛寺(法話拝聴) (解散)

鎌倉駅東口からバスに乗り約10分、光明寺前で下車。

総門を通り抜けると大きな山門が見える。弘化四年(1847)に再建されたもので、五間三戸二階二重門、と呼ばれる。鎌倉に現存する最大の物で、間口は約16m、奥行き約7m、高さ約20mで一階は和風造り、二階は中国風に作られており、五山形式(禅宗仕様)が取り入れられている。狭い急な階段を頭をぶつけないよう気を付けながら登る。二階には釈迦三尊、四天王、十六羅漢木像が安置されており、平成二十三年、法然上人八百年大遠忌を期して普賢菩薩が新彫され、その他の諸像も修復され、極彩色の鮮やかな色で並んでいた。羅漢さんの顔立ちにそれぞれ長が有り、高僧だが人間らしさも見られて親しみを覚えた。また、どこから来たのか人懐こい飼い猫と一緒に上がって来て皆の気を引いていた。二階から海の方を見やると遥か彼方に少し雲が掛かった霊峰富士の頂が見えた。機会があれば天気の良い日にもう一度行ってみたい所だ。

国重文の本堂(大殿)は、元禄十一年(1698)に再建されたもので昭和四十九年に大改修された。現存する木造の古建築では鎌倉一の大堂である。この日はピアノの演奏会のリハーサル中と言う事で、中には入れず外回りの廊下から、三尊五祖(阿

弥陀如来、観音・勢至の両菩薩、浄土宗の五人の



光明寺山門

祖師)の石庭を見学した。お十夜法要は、明応四年(1495)後土御門天皇に許されて以来、平和と安泰を願い営まれている。



光明寺本堂

記主庭園は本堂の左手に有り、小堀遠州の作と伝えられている。昭和二十六年に大賀一郎博士が千葉県検見川遺跡で発見した蓮の実から発芽させた古代ハスも植えられている。

光明寺境内では他にも開山堂、鎌倉アカデミアの碑、網引き地藏尊、御廟所を順次巡った。また隣接する蓮乗院、千手院を拝観した。

光明寺裏山から車道を下った右側に内藤家代々の墓所が有る。内藤家は関ヶ原の戦い以前から徳川家に仕えていた譜代大名で、陸奥の国磐城の藩主の後に日向国延岡の藩主となり、幕末まで在封した。江戸初期に光明寺の檀家となり、深川の霊巖寺より墓を移した。墓碑、宝篋印塔、仏像、灯籠が並び、これほど大規模な大名の墓所が一か所

に纏まっているのは珍しい。

材木座海岸で昼食を済ませ、補陀洛寺へ向かいご住職から縁起や貴重な仏像などに関する法話を拝聴した。補陀洛寺は源頼朝の祈願所として文覚上人を開山とし、養和元年(1181)創立された。もとは七堂伽藍の大寺院という。本堂では本尊十一面観音菩薩像、行基作と伝える薬師如来像、運慶作と伝えられる日光・月光菩薩像など多くの仏像を拝観、往時を偲ばせた。また珍しいものとして、平家の総帥・平宗盛が最後まで持っていたとされる「平家の赤旗」を特別拝観させていただいた。

(清水孝照 記)



材木座海岸（昼食）

## 第7回 二階堂方面を歩く

開催日 : 平成28年12月1日(木)

参加人数 : 男性29名、女性3名 合計32名

コース : 岐れ道バス停～覚園寺～鎌倉宮(権禰宜による案内)(昼食)～永福寺跡～瑞泉寺～  
護良親王墓～鎌倉宮(解散)

雨が少し残るなかバス停「岐れ道」に集合、近くの駐車スペースで挨拶をした後、最初の訪問地、覚園寺に向かう。覚園寺では作務衣に身を包んだ案内人に迎えられ、丁寧なご説明をいただいた。北条義時が建立した大倉薬師堂が前身、後に九代執権・北条貞時が本格的な大寺を発願し嘉元四年(1306)に完成した。心慧を迎えて開山とし、覚園寺と命名、四宗兼学(蜜、律、念、禅)の学問所となった。



覚園寺山門

入口正面には愛染堂が建つ。明治初年に廃寺となった大楽寺に所属していた堂。木造愛染明王のほか、珍しい鉄造の不動明王坐像などが安置されている。

境内を奥に入ると薬師堂がある。堂内正面には本尊の木造薬師如来坐像、両脇には日光・月光菩薩像が安置され、両側面には十二神将が睨みをきかしていた。いずれも想像以上に大きく迫力を感じた。虹梁には文和三年(1354)に修理した折に足利尊氏を書いたという文字が残されている。建屋にも仏像にも歴史の重みを感じる空間であった。地藏堂には地獄で火攻めに苦しんでいる人々の身代わりになり、全身が黒くすすけた黒地藏が安置

されていた。何度彩色をしてもすぐに元の黒さに戻ってしまうと言われている。江戸時代の庄屋であった旧内海家住宅では、閻魔王を初めとする冥途の裁判官に係る十三仏信仰の話を伺う。十三仏やぐらでは小さなロウソクに灯りを点して極楽浄土に行けるよう願った。撮影禁止の場所が多かったのは残念だったが、しっかりと脳裏に焼き付けた。

次は鎌倉宮へ、祭神は大塔宮護良親王。権禰宜の案内により境内を巡った。親王は建武の新政を担ったが足利尊氏と対立し、東光寺の土牢に幽閉され後に殺害された。明治天皇の意思により東光寺跡に創建されたのが鎌倉宮である。土牢は今も残る。宝物殿には護良親王のゆかりの品など多数陳列されていた。

昼食後は永福寺跡へ、永福寺は鶴岡八幡宮寺、勝長寿院と共に源頼朝が創建した三大寺院の一つである。

伽藍は平泉中尊寺の二階大堂をまねた本堂と阿弥陀堂、薬師堂の三堂が中心で、大池のある荘厳な寺院であったといわれている。この辺りが二階堂と呼ばれる所以である。応永十二年(1405)火災により焼失、室町時代末期には廃絶した。近年の発掘調査では本堂の二階堂の建物跡とみられる遺構が出土し、柱の直径が60cmもあった大寺院であったことが分かった。現在は史跡公園として整備工事が進められている。



永福寺復原図

続いて瑞泉寺へ、創建は嘉暦二年(1327)鎌倉公方の菩提寺として、関東十刹の第一位に列せられていた寺院である。入口から長い階段が続き、ようやく山門に着く。本堂の外から本尊釈迦如来像、千手観音像(徳川光圀寄進)、夢窓疎石像を拝観した。境内にはどこも苦地蔵、吉田松陰留跡碑、むじな塚伝説の碑などが見られる。光圀御手植えとされる冬桜は数輪の可憐な花をつけていた。最後は護良親王の墓、多くは急な階段の下から眺め、上ったのは数人であった。鎌倉宮まで移動して終わりの挨拶を交わし帰途についた。



瑞泉寺本堂

(横山美智男 記)



## 第8回 鎌倉七福神巡り

開催日 : 平成29年1月13日(金)

参加人数 : 男性30名 女性4名 合計34名

コース : JR北鎌倉駅～浄智寺(布袋尊)～鶴岡八幡宮・旗上弁財天社(弁財天)～宝戒寺(毘沙門天)～妙隆寺(寿老人)～昼食(鎌倉婦人子供会館)～本覚寺(恵比寿)～江の電鎌倉駅～長谷駅～御霊神社(福祿寿)～長谷寺(大黒天)(解散)

七福神とは、<sup>にんのうはんにゃはらみつぎょう</sup>仁王般若波羅蜜經の「七難即滅、七福即生」に基づき、室町時代中頃に成立。対象神は、江戸時代中頃に恵比寿、大黒天、弁財天、毘沙門天、寿老人、布袋尊、福祿寿の七柱に決まる。鎌倉では、昭和57年に創設、「鎌倉江の島七福神巡拝」として続けられている。

朝方の冷え込みも七福神巡りをスタートする頃にはすっかり緩み、この時期としては絶好の探訪日和となった。

最初に訪れたのは浄智寺。平日にもかかわらずかなりの参拝客で賑わっていた。境内の小さなトンネルを抜けた先の洞窟に少しユーモラスな姿で布袋尊が鎮座。福運をもたらす神と称えられ、お腹をなでると御利益があるとかで、スベスベに光っていた。



浄智寺の布袋尊

次に訪れたのは鶴岡八幡宮の旗上弁財天社。頼朝が平氏追討の旗上げをした時、妻政子がこの社で戦勝祈願したことでこの名がある。弁財天は七福神で唯一美貌を備えた女性の神で、音楽や舞踊などの芸事の神とされるが、現在は鎌倉国宝館にあり拝観出来ず残念であった。

毘沙門天がある宝戒寺



次は毘沙門天がある宝戒寺へ。毘沙門天は北門を守る四天王の一つで財宝や戦勝に御加護があるとされ

ることから、特に武士に人気があり、上杉謙信の軍旗に用いられたことはよく知られている。この寺の毘沙門天は小さいながらも甲冑に身を固めた姿には迫力を感じた。



妙隆寺の寿老人

次は住宅街の中にひっそりと佇む妙隆寺へ。この寺には「鍋冠り日親」の逸話があり、拷問に屈せず天寿を全うしたことから、長寿の神とされる寿老人が祀られている。昼食は鎌倉ガイド協会のご尽力により、新木の香り漂う鎌倉婦人子供会館で。

午後最初の訪問先は本覚寺。この寺の夷堂に恵比寿神が鎮座する。近年、この寺に奉納される提灯が鎌倉の年末年始の風物詩となっているが、その数の多さには圧倒された。



本覚寺の夷堂と提灯

次は江ノ電に乗り福祿寿のある御霊神社へ。福・祿・寿の三徳を備える人徳の神とされる。神社の例祭日には珍しい面掛行列が行われ福祿寿も参加する。

最後に訪ねたのは大黒天のある長谷寺。人気の寺だけあって大勢の参拝客で賑わっていた。この寺の大黒天は県内最古の尊像として観音ミュージアムに収蔵の為、現在は「出世開運大黒天」が大黒堂に祀られ、手の届く場所には「さわり大黒天」が安置されている (山腰策次郎 記)



長谷寺のさわり大黒天

## バス探訪 富士山一周 浅間神社を訪ねる

開催日 : 平成28年11月25日(金)

参加人数 : 男性33名(内ビジター5名)、女性13名(内ビジター5名) 合計46名

コース : 金沢文庫~覚園寺~東口本宮富士浅間神社~北口本宮富士浅間神社~昼食(河口湖畔)  
~白糸の滝~富士山本宮浅間神社~金沢文庫

前日の54年ぶりという雪にびっくりさせられたが、当日は快晴。参加会員の集合も早く金沢文庫を定刻より早めに出発した。途中、東名のビューポイントでは白く雪化粧した丹沢山塊、箱根連山を従えすっぽり雪をかぶった雄大な富士山に感嘆の声が出る。



最初の東口富士浅間神社では残雪に足を取られるのを注意しながら社殿に参拝する。平安時代初頭、富士山東麓で噴火が起きその鎮火を祈願した祭事跡に社殿を造営したのが始まりといわれる。ここは富士山須走口登山の起点として江戸時代は富士講でにぎわったといわれる。

次は「吉田の火祭り」で有名な北口本宮富士浅間神社ではボランティアガイドの案内で2班に分かれて参拝した。参道は除雪してあるが、ところどころ凍っていて注意しながら進む。拝殿、神楽殿、隨身門など江戸中期、富士講が最盛期を迎え

たころ村上光晴氏により大修理が行われた荘厳優美な建築群が残っている。

昼食は河口湖畔の大正時代から営業をしているという「みはらし亭」で地元名物のほうとう鍋で体を温めた。午後は世界遺産構成資産の一つである「白糸の滝」、「音止めの滝」を見学した。

最後は全国千三百余りの浅間神社の総本宮である富士山本宮浅間大社に参拝した。二千年の昔、富士山の噴火を鎮めるため浅間大神を祭ったのが始まりで平安初期になり坂上田村麻呂がこの地に壮大な社殿を建てたと言われている。現在の本殿は徳川家康の造営で、高さ13mの二階建て三間社流造で他には例を見ない「浅間造」と呼ばれている。湧玉池は中世以降、富士山に登る人はここで禊をして富士山登山に臨んだといわれる。

沼津でお土産を買ったあと、バスの中ではお酒も入り賑やかな時を過ごしながら無事金沢文庫に帰着した。

(吉田寿紀 記)



北口本宮富士浅間神社(左は御神木)



富士山本宮浅間大社

## バス探訪記

# 『富士山一周 浅間神社を訪ねる』

前日の54年ぶりと言う雪にびっくりさせられたが、当日は飛び切りの快晴。11月25日に「寺社を巡る会」のバス探訪が実施された。バスは東名高速に乗り途中、丹沢山塊・箱根連山がくっきりとみられ、富士山の頂上が真っ白に雪化粧しているのも見られた。足柄SAではより近くに真っ白の富士山の全景が望まれた。稜線には雪煙が立ち上るのが遠目にも見られた。風が強いのか。



御殿場ICで高速を降りて静岡県内一般道に乗り、最初の東口本宮富士浅間神社に向かった。東口本宮富士浅間神社では積雪に足を取られるの注意しながら、社殿に参拝する。平安時代の初頭、富士山東麓が噴火した時国司・郡司は逃げ惑う住民の為須走に斎場を設け祭事を行い鎮火の祈願をしたと言う。その鎮火祭の跡地に社殿を造営したが江戸時代には富士山東口登山道の本宮として須走村の宿場町と共に栄えた。また、浅間神社神主の下に編成された須走村の御師は小田原藩及び京都の吉田家の庇護を受けその活動は関東一円に広がり、江戸時代は富士講で賑わったと言われる。



東口本宮富士浅間神社社殿

次は吉田の火祭りで有名な北口本宮富士浅間神社でボランティアガイドの案内により2班に分かれて参拝した。



北口本宮富士浅間神社参道参道は除雪してあったが、ところどころ凍っていて注意しながら進んだ。石段等には滑り止めの砂が撒かれていて気遣いが有難かった。古文書には諏訪の森浅間神社とあるが、以前より諏訪明神が鎮座していたこの地に浅間神社が勧請された。江戸時代富士講中興の祖・村上光晴が境内社殿の大規模工事を行い当時の繁栄と技術の粋を伝えている。



北口本宮富士浅間神拝殿

8月26・27日の鎮火大祭（吉田の火祭り・重要無形文化財）は日本三奇祭の一つである。

昼食は河口湖畔の老舗みはらし亭で地元名物のほうとう鍋で体を温めた。

午後は世界遺産構成要素の一つである「白糸の滝」「音止めの滝」を見学した。日本三大仇討の一つ曾我兄弟仇討の計画がこの地でなされたと言う。富士山の雪解け水が地層の境から流れ落ちたもので高さ20m、幅150mに及び日本屈指の名瀑で、絶壁から絹糸を垂らしたように流れ落ちる優雅な様から「白糸の滝」と名付けられた。



白糸の滝

富士山本宮浅間大社は全国の千三百余の浅間神社の総本社で富士信仰の中心地として知られる。境内は広大で本宮社地で約 17,000 m<sup>2</sup>になる他、富士山八合目以上の約 385 万m<sup>2</sup>も社地として所有している。



「富士本宮浅間社記」によると垂仁天皇 3 年に富士山麓の山足の地に祀られていたが、日本武尊が駿河で野火の難に遭った時に浅間大神に祈念して難を逃れたので後に山宮に磐境を

設け浅間大神を祀った。後に坂上田村麻呂が平城天皇の命により現在の大宮の地に社殿を造営した。現在の本殿は徳川家康の造営で高さ 13m の二階建て三間社流造で、「浅間造」と呼ばれている。境内に有る湧玉池は富士の雪解け水が湧き出して水神の祭祀場として富士山を水神の神格で祀っていたとみられる。富士山に登る人はこの池で禊をして富士登山をしたと伝えられる。浅間神の遷座は水の神信仰から、火の神たる浅間信仰へ転換した事を示す出来事と解釈されている。

祭神はコノハナサクヤヒメで桜との関係は深く、境内には多くの桜の木が植えられている。静岡県側では積雪は殆ど無く、地面が見えていた。沼津のおみやげ店で買い物をした後、東名高速、横横経由で無事文庫西口に帰って来た。  
(清水孝照 記)



# 「懐かしの映画を観る会」

代 表 佐藤 晃

平成 28 年度第 15 回 鑑賞会

< 鑑賞日：2016・11・14 >



製 作： 1957 年 東映

上映時間：118 分

監 督： 今井正

脚 本： 八木保太郎

出 演： 望月優子、江原真二郎、木村功、中村雅子、加藤嘉

受 賞： 毎日映画コンクール日本映画大賞、監督賞、録音賞、ブルーリボン賞作品、監督、主演女優賞（望月優子）、キネマ旬報ベストテン第 1 位

## （あらすじ）

霞ヶ浦をのぞむ水郷の農村。この付近一帯は関東随一の米どころといわれているが、一戸一戸の耕地面積が狭くて、半農、半漁を余儀なくされている農家が多い。また、次男、三男問題がからみ、多くの問題を抱えている。若者たちの楽しみといえば、村祭りの夜に舟で対岸の村に押しかけて村の娘たちを冷やかすことぐらいである。農家の次男坊である次男（江原真二郎）も自衛隊帰りの仙吉（木村功）の尻馬に乗って対岸の村を襲うが、薄暗い農家で黙々と仕事に勤しむ安田千代（中村雅子）の清純な姿に淡い愛情を感じる。次男は兄（南原伸二）、妹（中

原ひとみ）たちの冷たさに耐えかね、仙吉と組んで、親方の船を提供してもらって帆曳き漁を始めた。仙吉は境界線を越えて魚を獲りまくるので荒らされた漁場のほうでは逆杭を打って防衛した。

やがて、秋祭りが来た。千代の母よね（望月優子）は生活が苦しいので、やむをえず禁止されている、さし網をやって監視船に捕まってしまった。一方、同じ湖上では越境して出漁した仙吉、次男の船は逆杭に引っかかって仙吉は死んだ。次男は危ういところを千代に助けられ、二人の心は寄り添った…

## （解 説）

1939 年（昭和 14 年）長塚節の原作を内田吐夢が監督した名作『土』の現代版を撮りたいとマキノ光雄が企画した。脚本は八木保太郎が担当した。農家出身の八木は霞ヶ浦近辺の農家の実態を克明に調べ、浮かび上がった問題点をドラマチックに展開していく。監督の今井正は、構成のしっかりした脚本を今井独特の抒情性で風景を美しく捉え、人間像を膨らませた。ある農家の次男坊の次男を中心に、農家の娘千代への淡い恋心、密漁をして捕まった千代の母親の苦しみ、将来のあてもない農家の次男、三男たちの抗争などが生き生きとそして詩情豊かに描かれる。撮影監督の中尾駿一郎のカメラ

は、東映初のイーストマンカラーを用いて、美しい田園風景と併せて、霞ヶ浦湖上での大きく帆を張った船による帆曳き漁を捉える。この湖上のシーンは映画史上に残る名場面である。芥川也寸志の情感溢れる音楽もドラマに溶け込んで、まさに総合芸術たる映画の特性を生かした作品となった。『米』はヨーロッパでも上映され「日本のリアリズム映画の傑作」と高く評価された。『米』は 57 年のキネマ旬報ベストテン第 1 位となったほか、毎日映画コンクールの日本映画大賞をはじめ各種の賞を総なめにする快挙を成し遂げた。

平成28年度第16回 鑑賞会

<鑑賞日：2016・11・28>

オリент急行殺人事件 Murder on the Orient Express

製作：1974年 英国 上映時間：128分  
監督：シドニー・ルメット  
原作：アガサ・クリステイ  
受賞：アカデミー助演女優賞（イングリッド・バーグマン）  
出演：エルキュール・ポアロ（探偵）アルバート・フィニー  
ラチェット・ロバーツ（殺人事件の被害者）リチャード・ウイドマーク  
ヘクター・マックイーン（ラチェットの秘書）アンソニー・パーキンス  
エドワード・ベドウズ（ラチェットの執事）ジョン・ギール・グッド  
アーバスノット（英国軍大佐）ショーン・コネリー  
メアリー・デベナム（アーバスノットの恋人）バネッサ・レッドグレイヴ  
ナタリア・ドラゴミノフ公爵夫人（老齢のロシア貴婦人）ウェンディ・ヒラー  
ヒルデガルト・シュミット（侯爵夫人のメイド）レイチェル・ロバーツ  
ハリエット・ベリンダ・ハッパード（中年のアメリカ人女性）ローレン・バコール  
グレタ・オルソン（中年のスウェーデン人宣教師）イングリッド・バーグマン  
ルドルフ・アンドレニイ伯爵（ハンガリーの外交官）マイケル・ヨーク  
エレナ・アンドレニイ伯爵夫人（アンドレニイ伯爵の夫人）ジャクリーン・ピセット  
サイラス・“ディック”・ハードマン（探偵社に勤める探偵）コリン・ブレイクリー  
ジーノ・フォスカレッリ（自動車販売のイタリア人）デニス・クイリー  
ピエール・ミシェル（車掌）ジャン＝ピエール・カッセル  
コンスタンティン（医師）ジョージ・クールリス  
ピアンキ（国際寝台車会社の重役）マーティン・バルサム

（あらすじ）

ポアロが乗り込んだオリент急行は満席で、知人のピアンキの世話でやっと席を確保できた。急行は途中積雪のため立ち往生して停車してしまう。一夜明けた1等車両で男の刺殺体が発見された。殺された男はラチェット・ロバーツ。死体には12の刺し傷があった。ラチェットはアメリカの富豪で、殺される前に身辺が危険だからとポアロは警備を頼まれたのだが、ポ

アロは彼に良い印象を持ってないので断ったのである。ポアロは早速、一等車の乗客12人に聞き込みを始めた。しかし、怪しいと思われる人物は見当たらない。しかし、事件現場に残された燃え残りのラチェットへの手紙を復元すると、5年前に世間を騒がせた大事件『アームストロング事件』が浮かび上がってきた……

（解説）

名探偵エルキュール・ポアロが活躍するアガサ・クリステイの傑作ミステリーを、「12人の怒れる男」のシドニー・ルメット監督がオールスターキャストで映画化した。12人以上にわたる登場人物を手際よくこなすS・ルメットの演出力も見事だが、豪華絢爛たる出演者たち

が演技力のコンテストのようにそれぞれの個性を發揮して演技するのもまた楽しい。ルメット監督は殺人事件でありながら、“ワインで乾杯”で映画を締めて、この作品を娯楽映画にした。

平成 28年度第17回 鑑賞会

<鑑賞日：2016・11・28>

アフリカの女王 The African Queen

製作： 1951年 米・英 映画 上映時間： 104分  
監督： ジョン・ヒューストン  
原作： C・S・フォレスター  
出演： ハンフリー・ボガード、キャサリン・ヘップバーン  
受賞： 1951年 アカデミー主演男優賞（H・ボガード）

（あらすじ）

1914年、ドイツ領東アフリカで、イギリス人のローズ（K・ヘップバーン）は宣教師の兄と布教にあっていた。生活に必要な物資は「アフリカの女王」と呼ばれるおんぼろ蒸気船を操ってイギリス人の船長チャーリー（H・ボガード）が運んでくる。第1次世界大戦が始まり、ドイツ軍が侵攻し、教会が壊されそのショックで宣教師が死んだ。ローズは天涯孤独の身の上となるが、様子を見に来たチャーリーに救われる。

二人は宣教師の遺体を埋葬し、「アフリカの

女王」で河を下り脱出を図る。しかし、行く手には厳しい大自然と激流と瀧、そしてドイツ軍の監視所が待ち構え、途中の湖にはドイツの戦艦が停泊しあたりを制圧している。チャーリーはためらうが、ローズは断固敵中突破を命令し、二人は河を下り始めた。ドイツ軍の監視所から狙撃されたり、激流に翻弄されたりして危機また危機の連続。二人は力を合わせて危機を乗り切っていくが、いつしか愛し合うようになる。はたして二人は脱出できるのか……

（解説）

C・Sフォレスターの冒険小説の映画化。J・ヒューストンは長年コンビを組んでいたH・ボガードにオスカー女優のK・ヘップバーンを組み合わせて、奇想天外な大冒険映画を作った。時代は第一次世界大戦、ドイツ軍の包囲網から、どうやってローズとチャーリーはおんぼろ船の「アフリカの女王」号を操って脱出できるのか。ボガードとヘップバーンの絶妙な掛け合いが見事である。H・ボガード（1899~1957）は『マルタの鷹』『キラーゴ』等のハードボイルド映画や『カサブランカ』等でみせたシニカルなダンディ振りから一転してひげ面の野暮で酒好きな中年の船長をユーモラスに好演し、俳優デビュー21年目にし

て初めてこの年のアカデミー主演男優賞を得た。一方のK・ヘップバーン（1907~2003）は当時44歳。演技にも一段と磨きがかかり、最初の貴婦人然とした振る舞いから、途中、河に飛び込んでの行動的な役割をチャーミングに演じた。ヘップバーンはオスカーの女王ともいわれ、主演女優賞を4回受けており、この記録は未だ破られていない。この映画でも主演女優賞にノミネートされたが惜しくも賞を逃している。この映画はアフリカでロケされた。当時「非米活動委員会」の嵐に傷ついたヒューストンが気分一新とばかりアフリカでそのうっぴんを晴らしたとも言われている。

平成28年度第17回 鑑賞会

<鑑賞日：2016・12・12>

ひぐらし  
蝸の記

製作：2014年「蝸ノ記」製作委員会

上映時間：129分

監督：小泉堯史

原作：葉室麟

出演：役所広司、岡田准一、堀北真希、原田美枝子、寺島しのぶ

(あらすじ)

城中で刃傷沙汰を起こしてしまった檀野庄三郎(岡田准一)は、本来なら切腹ものとなるところを家老(串田和美)から、罪を免ずる代わりに、切腹の日まで戸田秋谷(役所広司)を監視せよとの命をうける。秋谷は郡奉行の身でありながら側室と不義密通をし、小姓を切り捨てるといふ前代未聞の事件を起こし、十年後の夏に切腹すること、また、切腹の日まで三浦藩の「家譜」を編集し、完成させることを命じられていた。その切腹の日、3年後に迫っていた。庄三郎に与えられた監視の内容とは、秋谷の起した事件が家譜にどう書かれたかを報告し、家譜編纂により藩の秘め事を知った秋谷が逃亡を企てた時は、容赦なく妻子ともども切り

捨てよというものだった。幽閉中の秋谷を訪ねた庄三郎は、秋谷の妻・織江(原田美枝子)、娘・薫(堀北真希)、息子・郁太郎(吉田晴登)と生活をともにし始める。

編集途中の「三浦家譜」と秋谷の日記「蝸ノ記」を見た庄三郎は、切腹という苛酷な運命が待っているにもかかわらず、“なにごととも事実のまま書きとどめよ”という前藩主の言葉を守り、一日、一日を大切に家譜づくりに勤しむ秋谷の姿に感銘を受け、切腹に追い込まれた事件に疑問を抱く。そして、彼を救うべく真相を探り始める。そんな庄三郎に薫は徐々に心を開いていき、庄三郎も心の美しい薫に惹かれていく……

(解説)

原作は、時代小説として破格の累計50万部の発行部数を記録した葉室凛の「蝸ノ記」。2012年第146回直木賞受賞作である。監督は黒澤明監督の門下の小泉堯史。戸田秋谷は藩主の側室との不義密通の汚名を着せられ、10年後の切腹を命じられ、その間、家譜の作成に当たることとされているが弁明を一切せずひたすら家譜の編纂に励んでいる。その清冽な生き方が清々しい。秋谷の家族も汚名を着せられているにも関わらず、夫を父親を尊敬してい

る。その家族愛が美しい。また、秋谷は郡奉行の経験があるだけに、農民の暮らしに気を配り、農民から慕われている。こうした人柄に触れた庄三郎はいつしか秋谷を師と仰ぐようになる。映画は10年の年月を経て家譜編纂が完了したとき、秋谷は事件が冤罪であることを訴えることもなく、従容として腹を切る。これは、封建制のもとでの主命による切腹ではなく、藩を救うための最善の道であると信じたからであろう。

平成28年度第18回 鑑賞会

<鑑賞日：2016・12・26>

## 007 スカイフォール SKYFALL

製作：2012年 英・米映画 上映時間：142分  
監督：サム・メンデス  
原作：イアン・フレミング  
主演：ダニエル・クレイグ、ジュディ・デンチ、ナオミ・ハリス、ハビエル・バルデム

### (あらすじ)

「007」をコード名に持つM I 6のエージェント、ジェームズ・ボンド（ダニエル・クレイグ）は新人女性エージェントのイヴ（ナオミ・ハリス）とともにトルコでの作戦に参加していた。その最中、M I 6の作業員たちが殺され、各国のテロ組織に潜入している総てのNATOの情報が収められているハードディスクが奪われた。奪われたディスクを奪還する命令がボンドに出された、ボンドは実行犯と目されるフランス人傭兵パトリスを追跡する。イヴもパトリスを追い、パトリスに照準を合わせようとするが、ボンドと列車の上で格闘中なので射撃できない。M I 6部長Mの指令で発砲するが、弾はボンドに当たり峡谷に落下して行方不明となり、パトリスは逃亡する。数か月後、ボンドの死亡が公式に認定された。

ロンドンでM I 6本部の部長のM（ジュディ・デンチ）のコンピューターが何者かにハッ

クされ、さらにM I 6本部も爆破された。このニュースは僻地で密かに過ごしていたボンドの目に入り、ボンドはロンドンに戻る。古い地下壕を利用したM I 6の新本部での「00」の復帰テストの成績は惨憺たるものであったが、Mはボンドの復帰を承認する。

ボンドは自身の肩に残っていた弾丸の破片からパトリスを特定し、新任の兵器開発課長Qから装備を受け取って、パトリスの向かう上海に赴く。上海でボンドは格闘の末、パトリスを倒したものの、雇い主が誰なのかを聞きだすことに失敗。パトリスの所持品にあったカジノのチップを手掛かりに、ボンドはマカオに向かう。カジノでボンドはパトリスの仲間らしい謎の女性、セヴリン（ベレニス・マーロー）に接触。セヴリンの船で、雇い主のいる廃墟の島に向かい、島でボンドは雇い主のラウル・シルヴァ（ハビエル・バルデム）と対決する……

### (解説)

この映画は『007 ドクター・ノー』から始まる『007』シリーズの50周年記念事業の一部として企画された。監督は『アメリカン・ビューティー』でアカデミー作品、監督賞等を受賞したサム・メンデスが起用され、オスカー受賞監督が『007』シリーズで初のメガホンをとることになった。シリーズ23作目になる。この企画は大当たりで、公開当初から評判となり、興業収入は製作費1億5千万ドル～2億ドルの5倍以上の11億ドルを上げている。これだけ多くの観客の支持を集めたのは、巧みなストーリー展開、個性的俳優の魅力、格闘を中心としたアクション等が考えられるが、やはり

サム・メンデスの優れた演出力であろう。007を演ずるダニエル・クレイグ（1968～）は英国生まれ。『007』シリーズでは『カジノ・ロワイヤル』（2006年）で6代目ジェームズ・ボンドに起用され、『慰めの報酬』（2008年）に続き、本作は3本目のボンド役となる。寡黙でタフな演技は原作のジェームズ・ボンドのイメージに最も近いと評価も高い。また、悪役シルヴァを演じるハビエル・バルデム（1967～）はスペイン国籍の演技派俳優で、圧倒的な迫力で観客に迫ってくる。最近の『007』シリーズの悪役に魅力がないとの悪評を一気に吹き飛ばす怪演である。

平成28年度第19回 鑑賞会

<鑑賞日：2017・1・9>

## 恋におちたシェイクスピア Shakespeare in love

製作：1998年 米国映画 上映時間：123分  
監督：ジョン・マッデン  
脚本：トム・ストップード、マーク・ノーマン  
出演：グウィネス・バルトロー、ジョセフ・ファインズ、ジュディ・デンチ、  
ジェフリー・ラッシュ、コリン・ファース  
受賞：アカデミー賞、作品、脚本、主演女優、助演女優、音楽、美術、衣装デザイン賞  
の7部門受賞

### (あらすじ)

1593年、芝居熱が過熱するエリザベス朝のロンドン。街の北部には“カーテン座”があり、テムズ河の南岸にはフィリップ・ヘンズロー（ジェフリー・ラッシュ）の所有する“ローズ座”があった。だが、疫病が流行して劇場が閉鎖された上、ヘンズローは金貸しから容赦なく借金返済を迫られていた。ヘンズローの頼みの綱は人気作家ウィル・シェイクスピア（ジョセフ・ファインズ）が執筆中のコメディだけである。だが、当のシェイクスピアは大スランプ。家族を故郷に残し、単身ロンドンに出てきたものの、創作意欲は出てこない。新作コメディの見通しがついた頃、オーデションを受けに来た

トマス・ケントと名乗る若者に惹かれて後を追う。ケントが入ったのはある富裕商人の家。その屋敷の夜会でシェイクスピアはヴァイオラ（G・バルトロー）にめぐり逢う。輪舞にまぎれて手と手を合わせた二人は瞬間、恋に落ちた。しかし、ヴァイオラには親の決めた婚約者ウェセックス卿（コリン・ファース）がいた。ウェセックス卿にその場を追われたシェイクスピアは、去り難い思いで身を隠していると、バルコニーにヴァイオラが姿を現した。シェイクスピアは「愛する方」と声をかける。その日からシェイクスピアのペンは流れるように愛の物語を生みだした……

### (解説)

シェイクスピアの不朽の名作『ロミオとジュリエット』誕生にはシェイクスピアの燃えるような恋物語があったという大胆な仮説をもとに作られた映画である。脚本にはイギリス演劇界の大物でシェイクスピア研究家のトム・ストップードを迎え、アメリカの脚本家のマーク・ノーマンとの共同脚本のオリジナル。時代考証も綿密で、登場人物も実在の人物をうまくドラマにからませている。虚実入り混じった人物の登場は映画に息吹を与え、中でも秀逸なのはエリザベス1世で、まるで絵画から抜け出たよ

うで、演じたジュディ・デンチはこの役でアカデミー助演女優賞に輝いている。シェイクスピアを演じたジョセフ・ファインズは初の大作の主演を大胆に演じ、彼の創作意欲を引き出すヴァイオラ役のグウィネス・バルトローはそのみずみずしい演技で、アカデミー主演女優賞を初ノミネートで見事にその栄冠を射止めている。この主役二人をジェフリー・ラッシュ、コリン・ファース、ベン・アフレックなど英国の誇る錚々たる名優陣が支え、豪華絢爛たる映画となった

平成 28 年度第 19 回 鑑賞会

<鑑賞日：2017・1・23>

## ドクトル・ジバゴ Doctor Zhivago

製作：1965 年 米・イタリア カラー 上映時間 194 分  
監督：デヴィッド・リーン  
音楽：モーリス・ジャール  
出演：オマー・シャリフ、ジュリー・クリスティ、  
ジェラルディン・チャップリン、アレック・ギネス、ロッド・スタイガー  
受賞：アカデミー賞、脚色、撮影、作曲、美術、衣装デザイン賞

### (あらすじ)

幼いとき、母を失ったユーリー（O・シャリフ）はモスクワに住む母親の友人に引取られ、成人して医者になる。詩人としても有名になっており、育て親の娘トーニャ（G・チャップリン）と結婚する。一方、近所の娘ラーラ（J・クリスティ）は革命運動に身を投じる学生パーシャ（トム・コートネイ）に思いを寄せられているが、母親の愛人の弁護士コマロフスキー（R・スタイガー）と関係する。ラーラの母親は娘とコマロフスキーとの仲を疑い自殺を図り、医者ユーリーに手当てを受ける。クリスマスの夜会で、ラーラはコマロフスキーを銃で撃つが失敗。コマロフスキーは居合わせたユーリーの手当てを受ける。

1914 年、第一次世界大戦が始まり、ユーリーは戦線で、負傷兵の手当てをし、野戦病院で、パーシャの妻となり看護婦として働くラー

ラと再会する。1917 年ロシア革命が起き、戦争も終わった。モスクワの自宅は革命軍に没収され、ユーリーは妻子と、義父とともにモスクワを脱出して、ウラル山脈を越えベルキノに向かった。

ベルキノに着いたが、目当ての義父の別荘もすでに革命軍に没収されていたが、辛うじて残っていた別荘番の小屋で生活を始める。妻の勧めで近くの町ユリアティンの図書館に出掛けたユーリーは、偶然ラーラと再会した。市内のラーラの部屋で二人は結ばれる。それから、ユーリーは時折ラーラの許を訪ねるが、ある日、ユリアティンからの帰り、ユーリーはパルチザンの一隊に誘拐され、パルチザンの負傷兵の手当てを命じられた。見張りが厳重のためユーリーは脱出できず、2年の年月が流れた。隙を見てユーリーは脱出し、家族の許に向かった……

### (解説)

1958 年、ノーベル文学賞はソ連の詩人で小説家パステルナークの「ドクトル・ジバゴ」に決定したが、ソ連政府の圧力で受賞を辞退させられた。ロシア革命の中での恋を描いた小説はソ連国内では発禁処分となり、密かに国外に持ち出され、イタリアで出版されてベストセラーとなった。この映画化権を獲得したのがイタリアの名プロデューサー、カルロ・ポンティである。ポンティはアメリカのMGMと共同で制作し、監督に『アラビアのロレンス』のデヴィ

ッド・リーンを充てた。反ソ的な映画ということで、ソビエト国内でのロケは許されないので、1年間かけてロシアの大地に似た風景を探し求め、スペイン、フィンランド、カナダでロケは行われた。主人公ジバゴは、激動する革命の嵐の中で二人の女性への愛に悩む。真摯に生きようとするジバゴの人間的な姿は、米ソ冷戦下の窒息する社会情勢の中で多くの共感を得た。モーリス・ジャールの「ラーラのテーマ」はバラライカの切ないメロディーが胸を打つ。

# 「ふれあいの道歩こう会」実施概要 No.16

小俣 悦男

## 独自コース 42 番「羅漢寺山(弥三郎岳)と昇仙峡」 (通算 124 回)

今回は昇仙峡の西側、獅子平から歩いて羅漢寺山に登りロープウェイで麓の仙娥滝駅に下った後、紅葉真っ盛りの昇仙峡を仙娥滝から長潭橋まで歩く。獅子平からパノラマ台までの道は昔は金峰山を頂点とした山岳信仰の道であり生活の道であったが、現在は甲斐市ふる里自然観察路の一部になっている。

実施日：平成 28 年 11 月 10 日(木) 天候：曇り時に晴れ間あり

歩行距離など：歩行時間 約 5 時間 歩行距離 約 11 km 参加者：15 名(男性 10 名 女性 5 名)

コース所在地：山梨県 甲斐市・甲府市

交通：往路：東神奈川駅 5:55 発⇒八王子駅 6:54 発⇒高尾駅 7:07 発⇒甲府駅 8:53 発⇒竜王駅 8:57 着。タクシー利用 竜王駅 9:10 発⇒獅子平 9:30 着

復路：タクシー利用 天神森バス停 15:35 発⇒甲府駅 15:55 着。甲府駅 16:10 (特急かいじ 118 号) ⇒八王子駅 17:14 着 17:30 発⇒東神奈川 18:27 着

コースと時間：獅子平(標高 565m) 9:40 発⇒分岐(839m 地点) 10:30 着⇒白山展望台(10:45~11:00)⇒白砂山往復(11:20~11:40)⇒パノラマ台(1004m) (ロープウェイ頂上駅) 11:55 着(12:25 まで昼食)、(12:30~13:05)羅漢寺山(弥三郎岳 1058.3m)往復。ロープウェイ頂上駅 13:20 発⇒仙娥滝駅(708m) 13:26 着 12:35 発⇒仙娥滝 13:45⇒(昇仙峡遊歩道を下る、13:55~14:05 東屋でティータイム)⇒天神森バス停 15:00 着

### ご存知でしょうか！

昇仙峡：秩父多摩甲斐国立公園に属し甲府盆地北側、富士川の支流である荒川上流に位置する特別名勝であり、渓谷百選の一位や平成の名水百選等に選ばれる渓谷である。甲府駅からバス 30 分ほどの長潭橋から仙娥滝までの全長約 5 キロメートルに亘る渓谷は、柱状節理の花崗岩および輝石安山岩の奇岩が至る所に見られる。渓谷沿いの断崖絶壁・滝・奇岩・侵食・紅葉・アカマツ・岩山・荒々しい川の流れるは昔から山梨県の観光名所になっている。最近ではロープウェイで羅漢寺山(弥三郎岳)へ登り山頂からの眺望も楽しめるので若者にも人気が高い。

冬紅葉名残り惜しみて山下りる一税



パノラマ台での集合写真



仙娥滝

## 独自コース 43 番「日向薬師と飯山観音」 (通算 125 回)

12月の定例会は、重要文化財 日向薬師(宝城坊本堂)の平成大修理の落慶(11月20日)に合わせたコース選定とした。日向薬師境内には、スダジイ、モミ、ウラジロガシ、イロハモミジ、タブノキが育成され、これらの木々に挟まれた参道は景観的にも素晴らしく、寺林特有の厳かさを保っていた。また、白山展望台からの眺めは、横浜のランドマークタワーや街並みが見え、北側に視界を移すと、東京副都心や東京スカイツリーも確認でき、南には大島の島影も見る事ができた。これも天気が良かったお陰でした。最後に立ち寄った飯山観音(飯上山・長谷寺)は坂東三十三観音の第6番で桜の名所としても有名だが12月なので静かだった。

実施日：平成28年12月8日(木) 天候：晴れ

歩行距離など：歩行時間 約5時間 歩行距離 約13km 参加者：20名(男性11名 女性9名)

コース所在地：伊勢原市・厚木市

交通：<往路>小田急 伊勢原駅 8時00分集合。伊勢原駅 北口3番バス乗場 神奈中バス 8:16 発【伊20 日向薬師行】に乗車⇒日向薬師バス停 8:50 着

コースと時間：日向薬師バス停着後準備体操を行い9:15 発⇒日向薬師(宝城坊 227m)9:25 着、記念撮影後 9:35 発⇒七沢展望台(404m)10:03 着、10:10 発⇒七沢神社 10:40 着⇒順礼峠・七沢森林公園さくらの園広場 11:20 着、昼食(40分、トイレ)記念撮影後 12:10 発⇒物見峠 13:05 着⇒貉(むじな)坂峠 13:20 着⇒白山展望台(284m)13:45 着(コーヒータイム 30分)記念撮影後 14:10 発⇒男坂下山⇒飯山観音(長谷寺)14:25 着。拝観、記念撮影後 14:35 発～飯山観音前バス停 14:50 着。飯山観音前バス停から 神奈中バス 15:16 発【厚20 本厚木行】バスに乗車⇒小田急本厚木駅 15:50 着。本厚木駅前解散。

ご存知でしょうか！日向薬師(ひなたやくし)は、神奈川県伊勢原市日向(ひなた)にある仏教寺院。本尊は薬師三尊。現在の宗派は高野山真言宗。中世以来薬師如来の霊場として信仰を集めている。日向薬師宝城坊は関東有数の古刹で、本尊は平安時代前期に作られた鉦彫り(なたぼり：像の表面にノミ目を残して仕上げる彫刻様式)の薬師三尊像である。また宝物殿には阿弥陀如来や四天王十二神将など23体の仏像が納められている。これらを含め 国の重要文化財9件、神奈川県および伊勢原市指定の文化財を多数所蔵する。

舞い下りし落葉を踏み下りかな一柵



日向薬師(宝城坊)での集合写真



順礼峠での集合写真

## 独自コース 44 番「高尾山をのんびり歩く」 (通算 126 回)

平成 29 年の初回はみんながお馴染みの高尾山(599m)とした。この時期は“シモバシラ”の氷の花が見られるかもしれないとの期待もあっての計画であった。今回、小さいながらも期待にたがわずに“シモバシラ”を見ることが出来た。ところで、山名の由来は『日本山岳ルーツ大辞典』によると、高尾(たかお)とは、尾根が高いところで左右に長く伸びていることを示す山名、またそういう山の峠名とある。また、『地名語源事典』には「たかお」に「高尾、鷹尾、高雄」という漢字をあて、「各地によくある地名」とし、尾とは尾根、すなわち山稜のこと。高尾とは高尾根という意味であると載っている。このように山の形からついたと考えられる。

**実施日**：平成 29 年 1 月 19 日(木) **天候**：曇りのち晴れ

**歩行距離など**：歩行時間 約 4.5 時間 歩行距離 約 12km **参加者**：17 名(男性 11 名 女性 6 名)

**コース所在地**：八王子市

**集合場所時間**：京王線高尾山口駅 9：00。

**コースと時間**：駅前で体操後 9:10 出発⇒(1 号路を経て)⇒ロープウェイ高尾山駅・霞台展望台(10:10～10:20)⇒薬王院(下から御本堂・御本社・奥之院)(10:45～11:15)⇒高尾山頂・昼食(11:30～12:10)⇒もみじ台・シモバシラ観察(12:15～12:40)⇒(5 号路を経て 6 号路)⇒琵琶滝(コーヒー・タイム)(13:50～14:10)⇒清滝駅 14:35 着⇒京王線高尾山口駅 14:40 着

**復路交通**：京王線高尾山口駅 14:49 発⇒14:51 着 JR 高尾駅 15:02 発⇒15:08 着 八王子駅 15:22 発⇒横浜駅 16:23 着

ご存知でしょうか！シモバシラとはどんな植物？ シソ科の植物で、高さ 40～70cm 程度の多年草。8 月下旬から 10 月上旬に白い穂状の花を咲かせ、関東地方以西～九州に分布。高尾山の氷のシモバシラは例年 12 月の中旬頃から 1 月下旬まで見ることが出来る。場所は高尾山もみじ台の北側巻き道で日影なので遅い時間でも見ることが出来る。とはいえ、氷の花はシモバシラの根から吸い上げられた水分が枯れた茎から染み出し、冷たい外気に触れて凍っていくことで作られるので、気温が氷点下でなければならず、また、雨や雪が降っている日や風が強い日は氷の花は出来ない。

高尾山あつたよパチリ「シモバシラ」一税



高尾山頂集合写真



シモバシラ

# 「浮雲俳句会」

# 抄録 No.36

代表 北野 清市

## 17回金沢区民俳句大会吟行会への参加 平成28年10月30日

本日は、天候にも恵まれ、金沢動物園とその界限における区民俳句大会の吟行会である。本大会では、ご当地俳句の作成方について、事前に一層の精進をお願いしたところ、結果的には提出された句の中、ご当地俳句の入選数とそれ以外の当季雑詠の入選数が、一対一とほぼ拮抗した。このようななか特記すべきは、わが浮雲俳句会と金沢俳句会のメンバーの活躍であって、当該区民俳句大会吟行会の天地人賞すべてを獲得して大会を終了した。

### 天賞

めくるめく上枝下枝と秋の栗鼠

とも女

活発な動物の所作をアッピールした佳吟。冬眠時期も近づき、眼が眩むほど活発に動き回る栗鼠。長い耳をたて長く毛深い尾を前後にゆらして、〈上枝下枝（はずえ・しずえ）〉と渡る軽快な秋の栗鼠である。可愛い！

### 地賞

秋草より長い舌出しオカピかな

和 女

動物の特徴を的確にキャッチした佳吟。〈オカピ〉は、金沢動物園のゲートを出て直ぐの処のアフリカ区に居住。麒麟の仲間であるが、麒麟の子供より小さく、〈長い舌を出し〉て木の芽や葉を食べている。当園には一頭しかおらず、さぞ淋しく故郷アフリカを思い浮かべているのだろう。

### 人賞

コアラ来て三十年緩（ゆる）し冬支度

一 幸

南半球から北半球への移住とその時間経過を想定。〈コアラ〉は、オセアニア区の代表動物。昭和61年当園へ移送されて〈三十年（みととせ）〉。最盛期には数十頭のコアラがいたというが現在は3頭のみ。コアラは一日20時間も睡眠をとる。そのため餌のユーカリを交換する時間—13時30分前後には、普段寝ていることが多いコアラでも、のそのそと動いたりユーカリを食べているところを見られる絶好のチャンスだ。30年ほどたったコアラの〈冬仕度〉も見たいものだ。

〔 秀 作 〕

## 天賞

## 阿寒湖のいのち鎮もる凍曇

和 女

一物仕立ての囑目吟。〈阿寒湖〉は、北海道東部の阿寒国立公園に属している火口湖。標高 419m・面積 12.9k㎡、深さ 38m。姫鱒・うぐいなどが採れ、毬藻は世界的に有名な天然記念物である。発想が雄大で俳意が深い。そのうえ〈凍曇（いてぐもり）〉＝こおりついでいるような曇りだが、この時点ならではの状況を醸し出し、しかも、上 5 と中 7 をバック・アップしている。

## 地賞

## むささびの飛び出しを待つ闇の宿

あきえ

宿での経験を踏まえた囑目吟。〈鼯鼠（むささび）〉は、栗鼠（りす）に似ているがそれよりやや大きい。手首から足先までの飛膜が発達しており、10m 余りも飛ぶ。夜行性で森林に住み、木の実や昆虫などを食用にしている。作者は、この鼯鼠の飛び出す気配を感じ、〈飛び出しを〉今か今かと待つ〈闇の宿〉である。

## 人賞

## 落葉搔き迷える雀見詰めをり

勇 平

客観的に周囲を見詰め直した写生句。落葉樹は冬には葉を落として春の芽吹きを待つ、この落葉。掃くのは第一人称で「わが歩む落葉の音のあるばかり 久女」と、われ・自分を中心に主観的に見るのが通常だ。ところが、搔くのは第二人称で「やねふきの落葉踏むなり闇の上 蕪村」のように、あなた・君を中心に客観的に見るのが普通だ。この点掲句の場合も、落葉を掃く動作に気を取られると、一般的に主観的な表現になりがちである。しかし、落葉を搔くと云えば、第二人称が落葉を搔いているので、客観的に〈迷える雀〉を〈見詰め〉ることが出来るといえよう。

## 特選

## 冬將軍阿寒湖湖畔居坐りて

勝 美

季折々を楽しめる阿寒湖、冬は湖にテントを張り氷上に穴をあけワカサギ釣りを楽しむ。湖畔でのアイヌコタンの人々の生活の様子 独特の木彫りや刺繍する姿を詠みたかったが上手く表現できずこの句になりました。現地を旅した思い出と共に。

## 酉の市三本締めのおかめ面

三 洋

11 月になるとあちらこちらで酉の市が立ちます。酉の日は、毎日に十干十二支を当てて定める日付け法で、「とり」の日をあてます。ことしは「とり」の日は 11 月に 2 回ですの

で「一の酉」「二の酉」でおわります。酉の市の露店内の派手なインテリアのなかにおかめや招福の縁起物を飾った「縁起熊手」が立ち並びます。雑踏のなかを売手、買手が丁々発止の掛け合いと三本締めで来年の来福を祈ります

## 頬刺す風漱石描く倫敦塔

一馬

『倫敦塔』は明治38年1月雑誌『帝国文学』に、文学士夏目金之助の署名で発表されたのだそうです。漱石はその冒頭で、ロンドン塔へは二度と行くまいとの感想を書いています。ロンドン塔は、ご承知の通り古い王政時代、英国王に対する反逆者達を多数塔内に幽閉し、その後随時引っ張り出して、ビーフイーターに断首処刑させたという残酷な歴史を持っています。漱石が塔を訪れたのは20世紀初頭、もとよりそんな処刑があった訳ではなく、彼の豊富な読書歴から断首の場を再現して見せ、塔見学の際案内役をしてくれた当代のビーフイーターや子連れの高貴な美女との出会い等を巧みに織り交ぜています。鈍色の冬雲の下、ロンドン塔の陰惨で悍ましい過去を頭にイメージして来た漱石が、あの日背中をすぼめてロンドンの下宿先に戻って来た姿を想像するのです。

## 谷底へ燃えつつ舞ひぬ冬紅葉

とも女

昨年年初冬、弥彦へ旅行しました。弥彦神社に参拝した後、ロープウエーに乗り弥彦山の頂上へ上りました。ピークは過ぎたものの、幸いにしてまだ紅葉が残っていました。頂上からの眺めは素晴らしく、遠方に佐渡島が横たわり、眼下には、色づいた木々が谷間を覆っていました。散り始めた木の葉が風に舞っています。神の手から離れ、華麗に谷底へと散っていく冬紅葉を、しばし眺めていました。ふと、「葉っぱのフレディー」と重なりました。我が人生もこのように終わりたいと思う今日この頃です。

## 千歳飴笑ふ目元は婆さん似

三旦

11月の風物詩の一つが七五三。関係者になることが毎年あるものでもないが、今年廻ってまいりました。本人からすれば、物心ついてから初めての「正装」であり、異次元の世界である神社本殿での儀式。緊張もするだろうし、傍から見ても高揚感も感じられます。神官から千歳飴を渡され、その時の表情が印象的でした。両親よりジジババの方が晴れがましくなり、自然に顔がほころぶ。双方の表情を見て、血は争えないなというところです。そして、ハレの日には女の子が似合うと感じました。その時の句です。

105回例会 平成28年12月25日

[ 秀作 ]

天賞

## 侘助の香りほのかに躡り口

祥代

千利休の打ち立てた茶道俳句。〈侘助〉は、高浜虚子の愛した椿（春の季語）の分身。山茶花に似ているが、花は小さく小ぶりで全体につつましやかである。それだけに茶室に飾られる茶花として重要視されてきた。茶室に侘助を飾ることは、主（あるじ）の客に対する心遣いの一端。客はしゃがんで茶室の〈躡り口（にじりぐち）〉に身をかがめた途端。茶

室全体に〈ほのかに〉漂う一輪挿しの淡いピンク色の侘助を見つけたのである。

## 地賞

### 十和田湖のほのかに眩し雪華の夜 和 女

湖の状態を適格に捉えた秀吟。〈十和田湖〉は、青森と秋田に跨るカルデラ湖。わが国の湖沼の中では規模が大きく、広さ 59k m<sup>2</sup>・深さ 334mと先月の兼題①の阿寒湖の数倍から10倍のスケールである。加えて標高も400mもあって、藍色の神秘的な水を湛えている。さらに周囲は鬱蒼とした原生林に覆われ、新緑の季節から紅葉にかけての風情は格別。そのうえ十和田八幡平国立公園のほぼ中央に位置し、北に八甲田や奥入瀬溪流、南に八幡平高原を含めた国際的な観光地にある。掲句は、十和田湖の状態を中7で〈ほのかに眩し〉と具体的、軽妙に捉え、下5の〈雪華（せっか）の夜〉と詩的な措辞に収めている。

## 人賞

### 行く年や猿から鶏へバトン継ぐ 勇 平

十二支を標榜したユニークな佳吟。因みに十二支は……子（ね）・丑（うし）・寅（とら）・卯（う）・辰（たつ）・巳（み）・午（うま）・未（ひつじ）・申（さる）・酉（とり）・戌（いぬ）・亥（い）と続く。このうち掲句にあるのは、今年の9番目の申＝猿と来年の10番目の酉＝鶏である。ここに両者の引き継ぎが年の暮れに完了した。願わくば、明るい未来でありますように！

## 特選

### 芽キャベツの甘味と辛み拵がれり 三 旦

猫の額のような畑を借りて百姓の真似事をしています。貧乏性故、狭いスペースに種類だけは色々な作物を植えています。素人ですからあたりまえ、人様に差し上げるような出来栄えものは皆無に近い。大半は自家で消費、かつ冬場は収穫物が少ない。そのなかで、たまたま印象的だったのがこの作物。口に入れた瞬間の感覚を詠んだけだいです。

### 甲斐の山朴の落葉のゆらぎ落ち 一 幸

今回、特選をいただいた句は当季雑詠の初冬を詠んだ句である。月に2回ほど山に行っている。山梨県の山には数回、いや十数回は行っているであろう。11～12月の山は、山路を覆い隠すほどの落葉があり、特に朴ノ木の葉は大きく、落葉は山路を覆い隠し、そしてうねらすほどの落葉の塊に会うことがよくある。それらの景から朴落葉の落ちる情景を詠んだ句である。蛇足ではあるが朴ノ木の実もかなり大きく、大人の手のこぶしほどの大きさである。何回かその実の落ちているのを見たことがある。このことは最近知ったことである。

### 実千両千年つづく古刹かな 重 九

京都には比較的よく訪れる。弟が嵯峨野に、息子が東山に住んでいるからでもある。おいしいものを食べ、寺社を見て歩くのも楽しい。洛北の離れ里、大原に千年を超す歴史の

ある門跡寺院の三千院がある。四季折々に美しい庭園も好きである。その中に黄色い実をつけた千両を見つけた。

### 鱒二匹冬日へ飛揚船溜まり

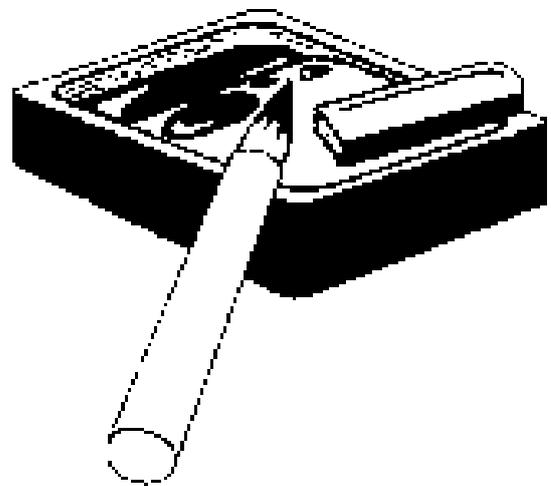
### 三 洋

冬の陽が船溜まりに静かに降り注ぐ。水面がキラキラ光る。何処かで「ポチャン」と水の音が聞こえる。鱒の飛揚かな？と思い其方へ目を遣るが其処はもう魚の姿はなく波紋だけがキラリとひかる。

### 弘明寺や読経染み入る枯銀杏

### 國 眼

弘明寺の本堂を久し振りに訪れました。弘明寺は南函書館へ通ったり、娘が居住していたり、そのついでに寄っては、お参りする機会が幾度かありました。今回は「植物観察会」への参加で、弘明寺公園周辺の散策の前に訪れました。その時、授かった句です。お参りの順番に並ぶと、本堂からの読経がジャズのリズムのように流れ、溢れだし、境内の隅々まで、包み込んでいきます。枯銀杏の巨木へも染み込んでいきます。しばし佇んでいました。至福の時間でした。



今回は、WORDに用意されている便利な機能のウィザードとテンプレートについて紹介します。

ウィザードとは、ユーザーに必要な情報を適宜示しながら対話形式で簡単に操作できるよう工夫されたアプリの機能を言います。文例ウィザードではアプリが聞いてくることに答えていくと、それに合わせた文書が作成されます。

テンプレートとは、あらかじめ用意された定型的な文書に名前など必要な部分を埋めこんだり書き換えたりすることによって、体裁の整った文書を簡単に作成できるものです。

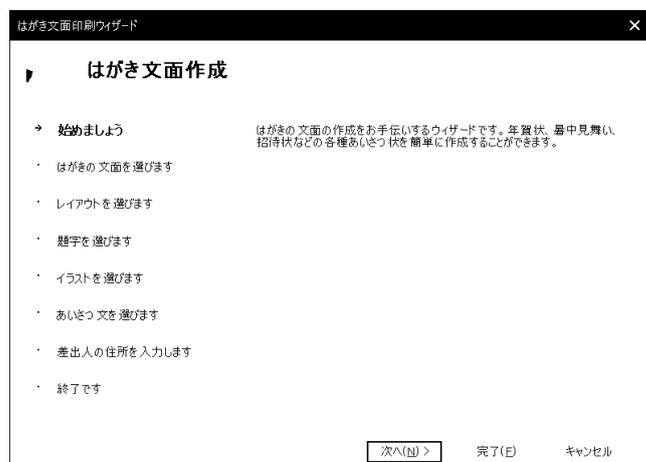
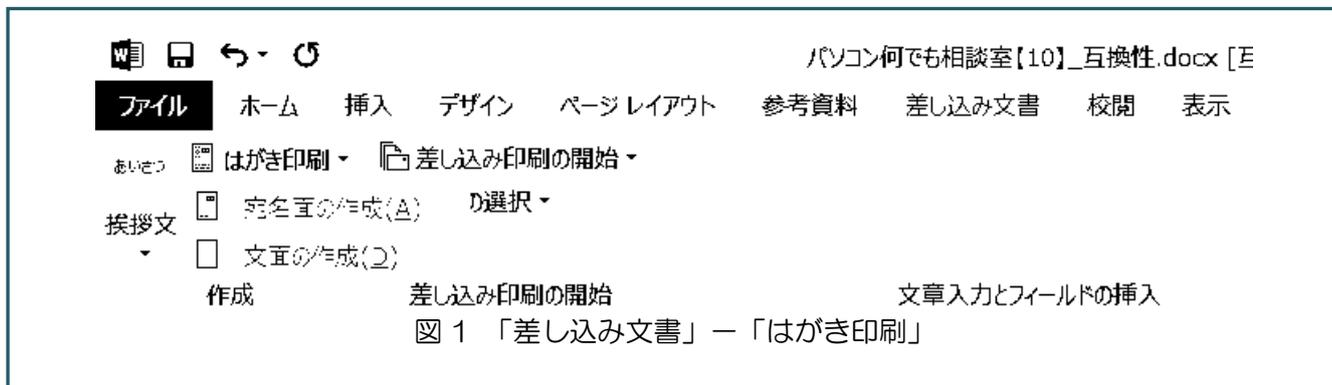


図2 はがき文面印刷ウィザード

ザード画面が開きます。

この後は下の各項目で各々の選択肢を選んで「次へ」をクリックしていただけます。



### 1. WORDで年賀状（ウィザード）

年賀状の挨拶面、宛名面の編集をするのに「筆なんとか」という専用ソフトを使っている方もおいでだと思いますが、WORDに簡単に年賀状を作成する機能があります。慣れれば10分足らずで挨拶面を作成できます。

その手順は次の通りです。

- ① 図1の様に「差込み文書」タブをクリックする。
- ② 「はがき印刷」をクリックする。
- ③ 「文面の作成」をクリックする。

これで図2に示す「はがき文面作成」ウィ

- はがきの文面（年賀状・通常はがき等）
- レイアウト（縦・横）
- 題字の選択
- イラストの選択
- あいさつ文の選択
- 差出人住所の入力

これで次ページの図3に示す年賀状が完成します。

作成した題字、イラスト、あいさつ文が気に入らなければ、簡単な操作で入れ替える事も出来ます。

## 2. WORDテンプレート

WORDを立ち上げると図4のような表示になります。いつも「白紙の文書」をクリックして文書作成に取り掛かりますが、それ以外の「テンプレート」を選択すると簡単に各種文書を作成できます。



図4 WORD 新規作成画面

「テンプレート」にはメモ、請求書、お祝いカード、名刺、写真入り文書等定型的な文書があります。この画面になれば、希望項目を検索して取り寄せることができます。

「名刺」をクリックすると図5の画面になり、「作成」ボタンをクリックして名刺テンプレートをダウンロードします。

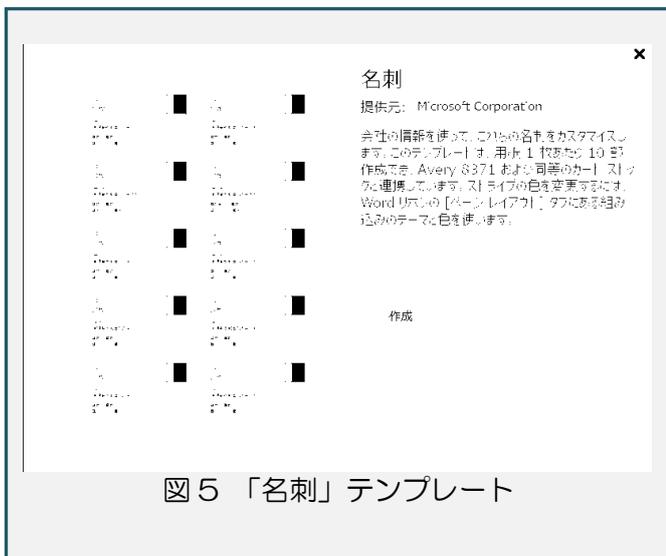


図5 「名刺」テンプレート

1枚目の名刺テンプレートに名前・会社名・役職・住所・電話番号・メールアドレス等の情報を入力するとすべての名刺に反映さ

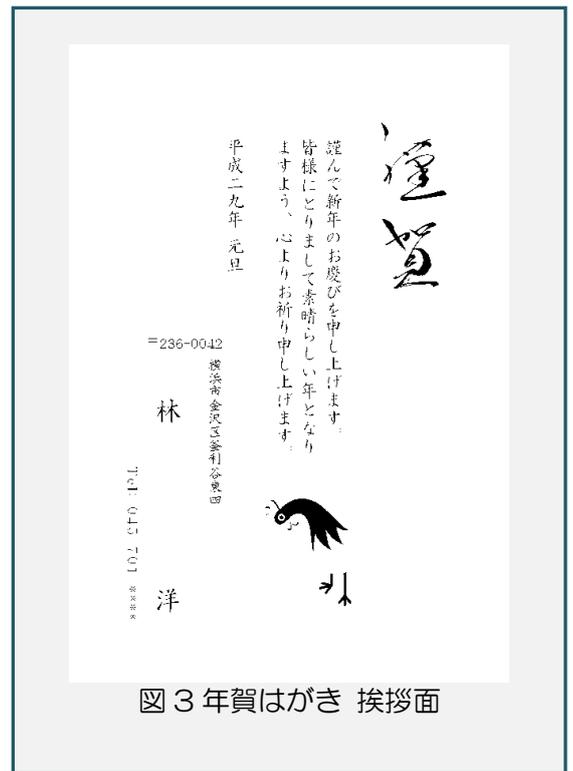


図3 年賀はがき 挨拶面

れます。この操作で図6の様な名刺が作成されます。



図6 名刺作成例

## 3. WORDのその他機能

WORDには今回紹介した以外にも沢山の機能が搭載されています。

リボンの「参考資料」タブをクリックすると、「目次」・「脚注」・「引用文献と文献目録」・「図表」・「索引」・「引用文献一覧」のグループが表示され、これだけで論文編集作業を完成させることができます。また、「校閲」タブの機能を使用すると複数人で文書チェックを実施してその経歴を残すことができます。

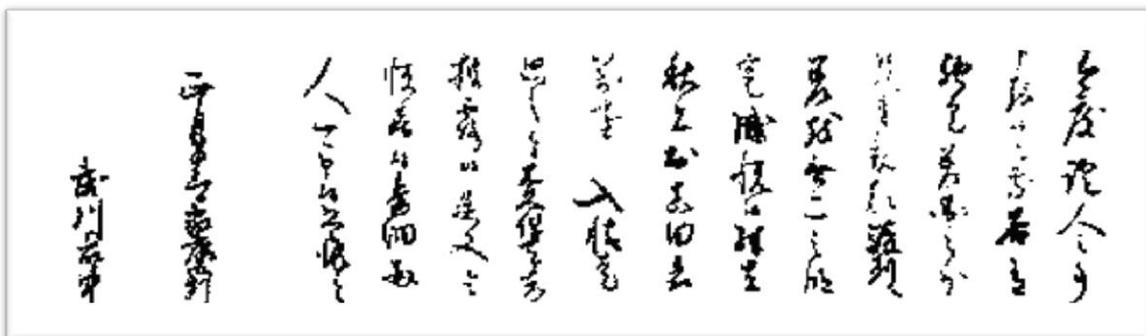
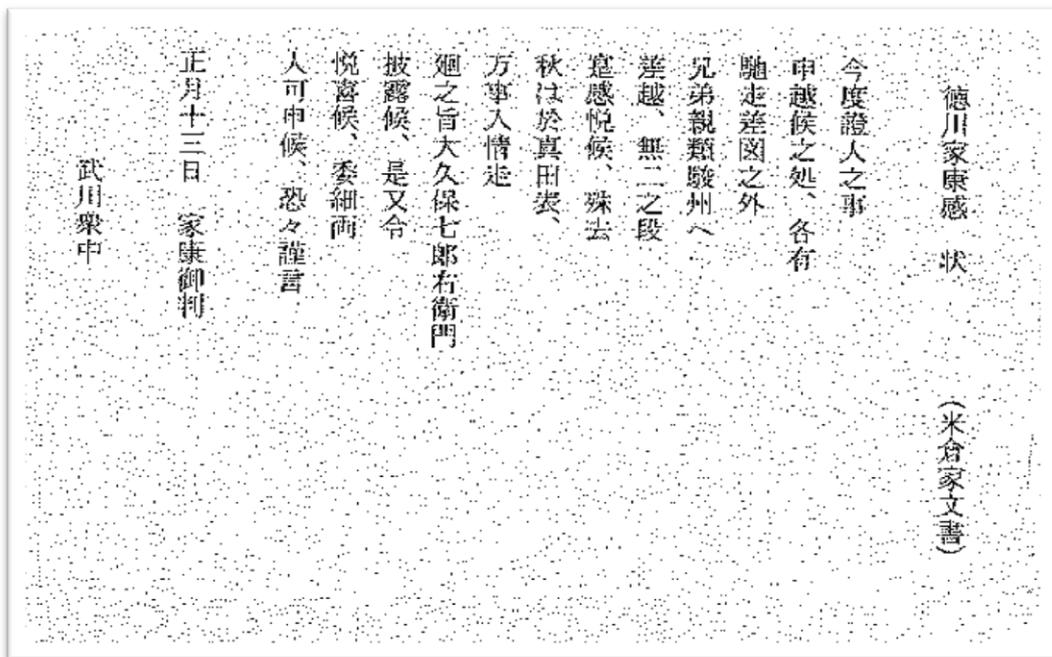
# 『金沢藩(六浦藩)米倉家について』

古文書を読む会 代表 真田 雅行

米倉家の数少ない古文書の中に「徳川家康感状」がある。概要以下の通り。

「今回妻子を人質として岡崎城へ送りたいとの申し出を受けた上に、一族を駿河国へ派遣するなど大変喜ばしいことである。殊に先般は信州上田の真田攻めに際していろいろ奔走奮闘された由を家来大久保七郎左衛門(大久保忠世)から報告があったが、これ又有難いことである。詳細は兩人に話があるだろう。

(天正14年 1586年) 正月13日 家康御判 武川衆中



米倉家の出身地はもともと山梨県笛吹市八代町「米倉」(石和より5km)で武田信玄の家臣であった。その後武田家滅亡後、米倉家は信州北巨摩郡武川村(現在の小淵沢近辺)に移住し、同郷の柳沢家などと武士集団(武川衆)を構成していた折、無主となった信州の「武川筋」に織田信長、北條氏直、徳川家康から仕官の誘いがあったが、天正10年(1582)家康に仕えることとし、その証として妻子を人質に出した外、天正13年(1585)9月の第1次上田合戦に真田昌幸が守る上田城攻撃に徳川軍として参戦(3代目種継)し真田軍に大敗北を喫したが、家康は米倉家の忠誠を多として家臣に取立てたのである。以降一貫して柳沢家と行動を共にし、多くの犠牲者を出しながら、柳沢家の幕府内での地位向上と同時に米倉家も譜代として出世していくこととなる。

以下に『武州金沢藩の流転と終焉』(森谷欽一著)を参考にしつつ米倉家の推移を辿ってみることにする。

## 1. 米倉家当主の系譜

### (1)初期の戦死者多数

初代から幕末までは17代、初代「重継」は武田家家臣として「長篠の戦い」で戦死、又息子「晴継」も北條氏政との「薩埴峠の戦い」で戦死、2代養子「忠継」の時徳川家康の家臣となり、兄弟「利継」が「小田原合戦」で戦死、3代「種継」の時前述の「第1次上田合戦」に徳川軍として参戦敗北、「大坂夏の陣(1615年)」で「義継」戦死、と戦国時代から徳川初期にかけて犠牲者が続出した。

その後は当主クラスの戦死者は出ず、ようやく徳川時代が軍事から文治へと落ち着いたことを示す。

### (2)柳沢家との関係

柳沢家は山梨県北巨摩郡武川村柳沢の出身で、米倉家が武川へ移住してから武川筋として同郷・同盟の地縁・血縁集団を率い、武田家滅亡により徳川家康に臣従(天正10 1582)後は北條家・豊臣家との戦闘、関ヶ原の戦い・大坂冬の陣・大坂夏の陣などに参戦した。

特に徳川5代将軍「綱吉」に引き立てられ、共に側近として出世軌道に乗った。

元禄9年(1696)7代「昌尹」(まさただ)の時米倉家は600石の「旗本」から1万1千石の「若年寄」に昇進、後に5千石加増され下野国都賀郡「皆川」に陣屋を構えた。

柳沢家は吉保の時に側用人から大老格甲府藩15万石の藩主に出世した。

享保7年(1722)吉保の4男「忠仰」(ただすけ)は婿養子となって米倉家を継ぎ、武蔵国久良岐郡金沢に陣屋を移し米倉藩10代目の初代金沢藩主となり明治まで続き両家の緊密な関係が保たれた。

10代忠仰以降他家からの養子が多いが、養子は江戸時代では珍しいことではない。

## 2. 金沢藩の領地

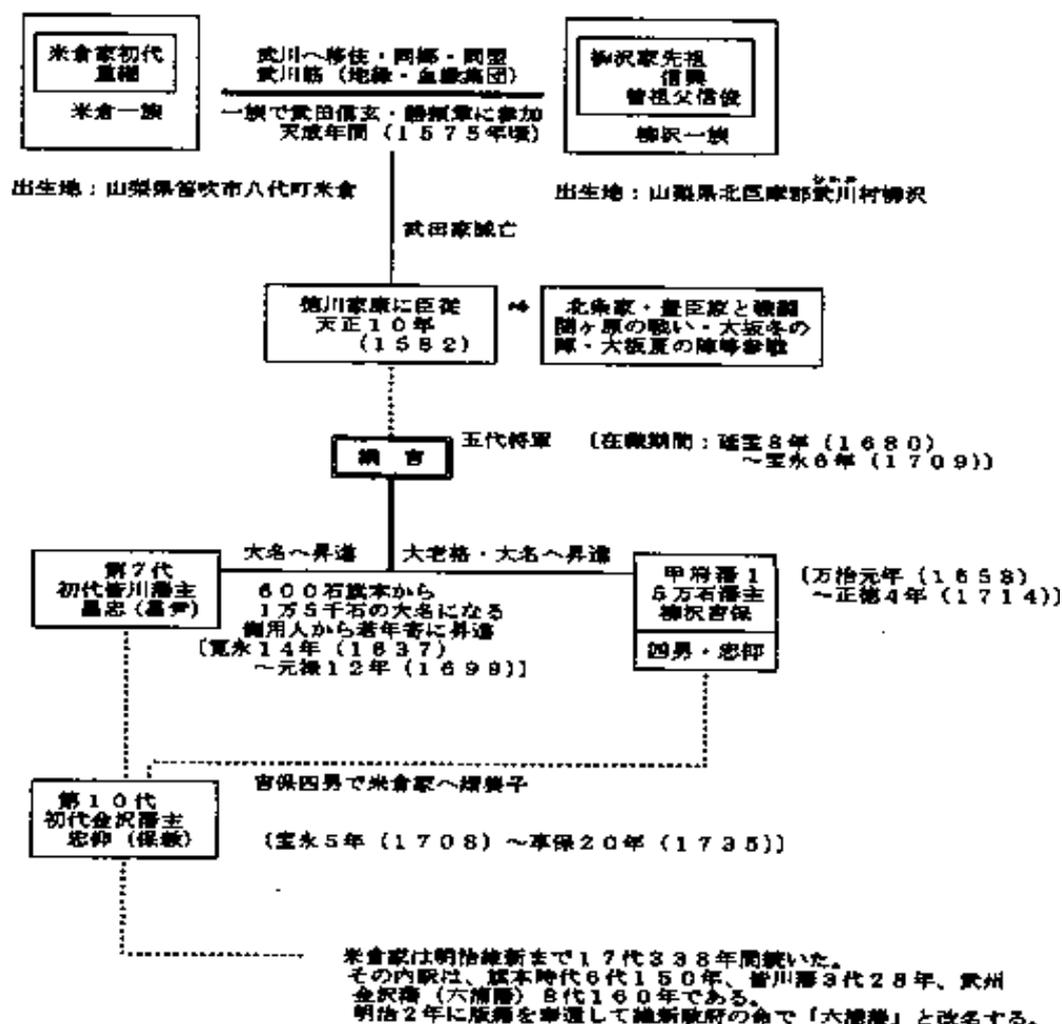
7代藩主の「昌尹」以前は旗本で知行地は相模国大住郡(秦野市)にあったが、前述の通りその後「昌尹」の時下野・武蔵・相模国各地に小領地を得て15千石の大名・皆川(栃木市)藩主となり(内3千石は分家に分割)3代続いた後、10代「忠仰」の時に金沢に陣屋を移し、主に養子相続で幕末まで8代続いた。

天保9年の高辻帳によれば、領地面積は都賀郡(栃木市)27.7%、安蘇郡(栗野町)33.7%、埼玉郡(越谷市)6.5%、大住郡(秦野市)19.6%、淘綾郡(ゆるぎぐん、二宮市)3%、久良岐郡(六浦)9.5%で、大名としては領知が飛び地で分散しており、税徴収など支配統治に苦勞が絶えなかったようである。





図表4. 米倉・柳沢両家の系譜



図表5. 金沢領各村家数・人口・村高・支配一覧表(明治元年10月)

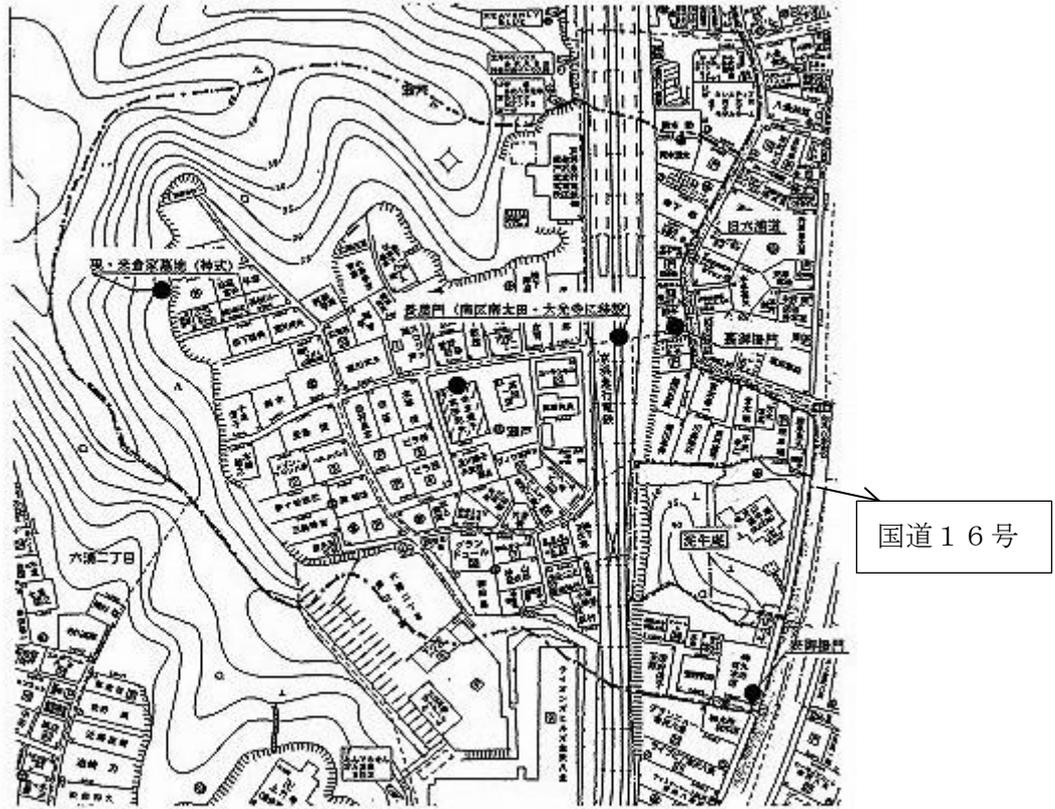
村名	家数(軒)	総人数(人)	男子(人)	女子(人)	村高(石)	支配
宿村	79	384	205	179	351.798	米倉丹後守領
赤井村	105	383	200	183	360.838	同
寺前村	78	437	230	207	219.284	同
称名寺領	24	130	68	62	100.000	寺前村の内
平分村	142	852	438	414	362.187	米倉丹後守領
社家分村	57	317	170	147	189.945	同
寺分村	29	166	96	75	83.121	同
瀬戸神社領	24	151	80	71	100.000	寺分村の内

注1 ほかに平分村の内郷音堂 (筆者注：円通寺・東照堂のことか) 除地17石277がある。  
 注2 江戸時代、幕府の庇護を受けた寺社には運営の基礎となる領地が与えられていた。称名寺領・瀬戸神社領からの年貢の徴収や幕府からの通達等は金澤は藩が取りまとめていた。

(「村高家数人別書上帳」町屋村組合より神奈川府役人中へ提出、松本ナミ家文書)

**図表6. 金沢藩(六浦藩)の陣屋跡**

陣屋所在地 相模国久良岐郡金沢 (現、金沢区瀬戸11~15)  
 金沢陣屋敷地17,967坪  
 (58,200平方メートル)



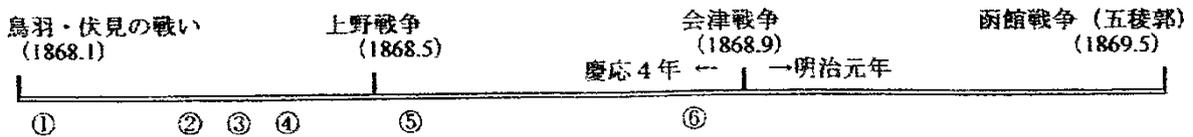
〔註1〕 江戸時代・寛政10年作成の『金沢陣屋全図』を元に『住字地図』に破線で囲った区域です。

**図表7. 幕末、金沢藩の動勢**

戊辰戦争前の動静

- (1) 第一次長州征伐、将軍家茂の親衛隊長 (1864.10)
- (2) 第二次長州征伐、将軍家茂の親衛隊長 (1865.5)
- (3) 横須賀製鉄所警備 (1867.7)
- (4) 将軍家茂に随行して大坂へ。鳥羽伏見の戦い直前に江戸に帰還 (1867.12)

戊辰戦争中の動静



- ① 朝廷への忠誠を誓い、恭順の意を伝える誓文を提出。東海道先鋒総督軍の通過する東海道の警備隊を派遣。(2.18)
- ② 東海道先鋒総督軍の有栖川親王の警護に一小隊を派遣。(2.18)
- ③ 横浜居留地に警備隊を派遣。(3.□)
- ④ 中山道先鋒総督軍参謀坂垣退助の命令により、下野・梁田戦争に参戦。(金沢藩唯一の実戦)(3.9)
- ⑤ 幕府軍反撃警戒のため浦賀の平根山砲台に警備隊を派遣。(4.12)
- ⑥ 幕府軍反撃警戒のため金沢中里(旧金沢道)及野島浦(江戸湾)に見張所を設置、警備隊を常駐させる。(8.14)

# 行事予定

2017年3月～2017年5月の予定 ☆6月学習会 6月17日(土) ☆7月学習会 7月22日(土)

	3月	4月	5月
学習会	予定なし	予定なし	5月13日(土) 能見台CC 9:30～12:00 ・総会 ・学習会「谷津あれこれ」 “わ”の会 会員 伊澤 尚氏
寺社を巡る会	3月2日(木) 集合:江の電江ノ島駅 10:00 地区:藤沢 訪問先:龍口寺、江の島道、常立寺、本蓮寺、一遍地蔵堂、密蔵寺等	4月6日(木) 集合:辻堂駅北口 10:00 地区:藤沢 訪問先:大庭城跡、大庭神社、成就院、舟地蔵、宗賢院等	5月12日(金) 集合:江の電稲村ヶ崎 10:00 地区:鎌倉 訪問先:11人塚、稲村ヶ崎、仏法寺付近、宝戒寺、腹切りやぐら等
古文書を読む会	3月9日(木) リハーサル室 10:00～12:00 石井家文書 3月23日(木) リハーサル室 10:00～12:00 和宮様御下向	4月13日(木) リハーサル室 10:00～12:00 石井家文書 4月27日(木) 未定 10:00～12:00 和宮様御下向	5月11日(木) 未定 10:00～12:00 石井家文書 5月25日(木) 未定 10:00～12:00 和宮様御下向
ふれあいの道歩こう会	3月16日(予備日17日) 128回=独自コースNo.46 日の出山を経てつるつる温泉へ 東京都 日ノ出町	4月20日(予備日21日) 129回=独自コースNo.47 奥多摩むかし道 東京都 奥多摩町	5月18日(予備日19日) 130回=独自コースNo.48 旧東海道 箱根関所から三島宿 神奈川県/ 静岡県
懐かしの映画を観る会	3月13日(月) 12:15 金沢cc それでも夜は明ける(米) 3月27日(月) 12.15 金沢cc 娘・妻・母(日)	未定 4月総会后決定	未定 4月総会后決定
浮雲俳句会	3月26日(日) 9:30～能見台CC 第108回例会 テーマ 霞ヶ浦	4月30日(日) 9:30～能見台CC 第109回例会 テーマ 宮が瀬湖	5月21日(日) 9:30～能見台CC 第110回例会 テーマ 尾瀬沼
パソコンを使いこなす会	3月14日(火) 金沢CC Internet 実用講座 — Internet 申込み— 3月28日(火) 金沢CC 画像処理実用講座 — CDラベル印刷— 9:30～12:00	4月11日(火) 金沢CC Windows 実用講座 — 画面の設定— 4月18日(火) 金沢CC WORD 実用講座 — 書式設定— 9:30～12:00	5月9日(火) 金沢CC EXCEL 基礎講座 — 入力の極意— 5月16日(火) 金沢CC EXCEL 復習講座 — 一家計簿— 9:30～12:00

## 連絡先:

- ・学習会 090-6176-4543(内田) ・古文書を読む会 784-4900(真田) ・浮雲俳句会 774-3878(北野)
- ・ふれあいの道歩こう会 787-3250(江口) ・懐かしの映画を観る会 701-1606(佐藤)
- ・寺社を巡る会 046-866-3339(吉田寿紀) ・パソコンを使いこなす会 701-9775(林)

## 編集後記

平成の年号も29年になりました。即今、天皇の退位の議論が国会等で行われています。そして米国では新大統領の着任、矢継ぎ早の大統領令の発効で、米国内にとどまらず世界中が騒がしく、平成29年は国内外問題の多い年になりそうです。俗世間的には、昔でいうと会員の皆様もお年を一つとったということになります。会員の平均年齢がいくつなのか分かりませんが、それなりの年齢で健康に十分に留意され、日常生活は勿論、学習会、分科会への参加、会報への投稿等々、有意義な日々を送ってください、送りましょう。

柴崎幸治

発行日	平成29年(2017)2月11日
発行月	4回(2,5,8,11月)
発行者	金沢区生涯学習“わ”の会
編集長	鈴木 秀幸
編集委員	貝田 誠作 田中 徳明 伊達 一雄 相川 勲 柴崎 幸治 山腰策次郎 江口 正彦 金間 誠一